STORAGECRAFT

SHADOWPROTECT 4

IMAGEMANAGER ENTERPRISE

ShadowProtect ImageManager

ユーザガイド

STORAGECRAFT

User Guide for

ShadowProtect ImageManager

Copyright (c) 2006 - 2011 StorageCraft Technology Corporation TM

All rights reserved. This product and/or its use may be covered by one or more patents pending. Please review www.storagecraft.com/legal for additional information about StorageCraft Technology Corporation's (STC) intellectual property, trademarks, copyrights and any patents pending.

ShadowProtect VirtualBoot is provided by STC to licensee on an "as is" basis and "with all faults." STC specifically calls the licensee's attention to provisions of the End-User License Agreement ("License") that are intended to leave full responsibility and risk for the use or the results of use of ShadowProtect VirtualBoot entirely with the licensee. These provisions include, but are not limited to, LIMITED WARRANTY, DISCLAIMER OF WARRANTIES and LIMITATION OF LIABILITY.

No part of this document may be reproduced in any means, electronic or mechanical, for any purpose, except as expressed in the accompanying License Agreement.

StorageCraft Technology Corporation
11850 S. Election Road, Suite 120
Draper, UT 84020
U.S.A.

Table of Contents

Chapter 1: ユーザガイドについて 5
Chapter 2: ImageManager 概要 6
2.1 ImageManager の機能 6
2.2 HeadStart Restore 使用例 7
2.3 ImageManager のインストール 8
Chapter 3: ImageManager ユーザインタフェース 9
3.1 ナビゲーションペイン 10
3.2 管理フォルダペイン 11
3.3 サービスペイン 12
Chapter 4: ImageManager の設定 14
4.1 ImageManager エージェントへの接続 14
4.2 ImageManager エージェントの設定 16
4.3 管理フォルダの作成 19
4.4 ImageManager 通知の設定 20
Chapter 5: ベリファイ 22
Chapter 6: 統合 24
Chapter 7: レプリケーション 26
Chapter 8: HeadStart Restore 29
8.1 HeadStart ジョブの作成 29
8.2 HeadStart ジョブの最終調整 31
Chapter 9: バックアップイメージファイルの参照 33
Chapter 10: 用語解説 34
Chapter 11: ソフトウェア使用許諾契約 38

c2011 StorageCraft Technology Corporation

c2011 StorageCraft Technology Corporation

Chapter 1: ユーザガイドについて

StorageCraft ShadowProtect™ ImageManager ユーザガイドへようこそ。本ガイドではImageManager の用途、技術、そしてバックアップイメージファイルチェーンの管理について説明します。

本ガイドは以下のセクションで構成されています。

- Chapter 2: ImageManager 概要 6
- Chapter 3: ImageManager ユーザインタフェース 9
- Chapter 4: ImageManager の設定 14
- Chapter 5: ベリファイ 22
- Chapter 6: 統合 24
- Chapter 7: レプリケーション 26
- Chapter 8: HeadStart Restore 29
- Chapter 9: バックアップイメージファイルの参照 33
- Chapter 10: 用語解説 34
- Chapter 11: ソフトウェア使用許諾 38

追加情報

- 追加情報や他のリソースについては以下を参照してください。
  - ImageManager 製品ファイル内のreadme.rtf ファイル
  - StorageCraft テクニカルサポートウェブサイト：www.storagecraft.com/Community
- ShadowProtect の仕様についての詳細は StorageCraft ShadowProtect ユーザガイドを参照してください。
- ShadowProtect 内の用語については Chapter 10: 用語解説を参照してください。

規定

このマークは注意または警告を意味します。

c2011 StorageCraft Technology Corporation

Chapter 2: ImageManager 概要

ShadowProtect ImageManager を使用して増分バックアップイメージやバックアップイメージファイルによって消費されるディスク領域を管理することができます。作成したポリシーに従い、ImageManager は自動的に増分バックアップイメージファイルを日次、週次、月次に統合することが可能です。また、ImageManager を使用してバックアップイメージを構成するファイルのベリファイやレプリケーション実行することができます。

ImageManager には、以下2つのコンポーネントが含まれます。

ImageManager サービス: ポリシーに基づいてバックアップファイルの管理を実行するWindows サービス。

ImageManager クライアント: ShadowProtect の保持ポリシーの作成・管理をするユーザインタフェース。

このセクションには以下のトピックが含まれます。

- ImageManager の機能 6
- HeadStart Restore 使用例 7
- ImageManager のインストール 8

注意: 連続増分バックアップスケジュールを使用しているときのみ、ShadowProtect はImageManager のポリシーを実行します。通常の週次・月次バックアップスケジュールでは ImageManagerのポリシーは使用しません。詳細については、ShadowProtect ユーザガイド内の「バックアップイメージファイルの作成」を参照してください。

2.1 ImageManager の機能

ImageManager の基本機能：

統合: 作成したポリシーに基づいて、ImageManager は自動で増分バックアップイメージファイルを統合します。チェーンの中に1つでも無効なファイルが含まれている場合、バックアップイメージ全体が使用できなくなってしまう恐れがあるので、統合することでそのリスクを最小限に抑えます。

ベリファイ: 設定した間隔に基づいて、ImageManager はバックアップイメージファイルの整合性を自動でベリファイ（または再ベリファイ）します。これは、ShadowProtect の手動ベリファイウィザードと同様の機能です。

レプリケーション（ローカル）: 作成したプロフィールに基づいて、ImageManager は自動でバックアップイメージファイルの複製をローカルドライブに作成します。スマートレプリケーション技術で統合ポリシーを精査し、不必要なバックアップイメージファイルの転送を防ぎます。

上記の基本機能に加えて、以下のプレミアム機能が ShadowProtect ImageManager Enterpriseの一部としてご利用いただけます。（※有償）

レプリケーション（オフサイト）: 作成したプロフィールに基づいて、ImageManager は自動でバックアップイメージファイルの複製をネットワーク共有や FTP サーバに作成します。スマートレプリケーション技

術で統合ポリシーを精査し必要な統合イメージファイルのみを転送することで、共有ストレージのディスク使用量を削減します。

HeadStart Restore: HeadStart Restore（HSR）を使用すると、ShadowProtect が増分バックアップイメージを継続的にイメージチェーンに作成するのと同時に、バックアップイメージを復元することが可能です。1TB以上のメモリを使用している場合、HSR を使用すれば、ハードウェアやソフトウェアの不具合によるダウンタイムを短縮することができます。HeadStart Restoreの使用に関する詳細は HeadStart Restore 使用例 [7] を参照してください。

ImageManager Enterprise 機能のライセンスに関してはライセンス [18] を参照してください。

2.2 HeadStart Restore 使用例

HeadStart Restore（HSR）は1TB以上のサーバが普通になってきている今日のビジネス業務にとって特に重要と言えます。以前は不可能だった以下のような事例でも、HSR を使用すればShadowProtect バックアップイメージを活用することができます。

仮想サーバマイグレーション

解決したい問題: 20TB のデータが存在するデータベースサーバを仮想マシン環境にマイグレーションしたいが、数日間もサーバをオフラインにすることはできない。

ImageManager の解決策: HeadStart Restore機能によって、元のサーバを稼働させたまま同じバックアップイメージチェーンの増分バックアップを仮想ハードディスク形式（VMDK, VHD）として継続作成します。一定時間経過すると、HSR は元のデータベースサーバからの最新の増分ファイルに追いつくので、業務時間外にサーバをオフラインにして仮想ハードディスクに最後の増分バックアップを適用し、仮想マシンに接続して起動させることで、新しいシステムを素早くオンラインにすることが可能です。また、ハードウェア非依存の復元（HIR）を使用して、OS ボリュームのマイグレーションを実行した後、新しいサーバ上でOS を正しく起動させることも可能です。

ハードウェアの不具合

解決したい問題: 使用中のデータベースサーバで 20TB のディスクアレイが故障。システムを素早くオンラインに戻しディスクのサブシステムを交換する必要があります。

ImageManager の解決策: ShadowProtect VirtualBoot 機能を使用することで使用中のデータベースサーバの最新のバックアップイメージをブートすることができます。その際、継続して増分バックアップを元のバックアップイメージチェーンに作成するようにVM を設定することができるので、ユーザはVM データベースサーバを元のサーバが稼働しているときと同じように使用できます。

VM 起動後、HSR でデータベースサーバのディスクのサブシステム復元を開始します。HSR が最新の増分に追いついた後、新しいディスクサブシステムのHSR インストレーションの最終調整を行います。その後、VM をシャットダウンし、元のデータベースサーバをオンラインに戻すことができます。ImageManager と VirtualBoot を併用することで今まで数日かかっていたダウンタイムを数分に抑えることが可能になりました。

c2011 StorageCraft Technology Corporation

仮想スタンバイサーバ

解決したい問題: 使用中のメインのサーバが故障した場合に備えてスタンバイサーバが必要だが、サーバミラーリング技術は高すぎます。

ImageManager の解決策: メインのサーバで作成される増分バックアップを HSR を使用して自動で仮想ハードディスク（VMDK, VHD）として復元します。メインのサーバが故障した場合、HSR の最終調整を実行し、Recovery Environment で残りの増分イメージを仮想ハードディスクに適用し、仮想マシンに接続して起動させることで短時間でオンラインに復旧することができます。

2.3 ImageManager のインストール

ImageManager ソフトウェアは ShadowProtect 製品に含まれていますが、デフォルトではインストールされません。ImageManager をインストールする前に、ご使用のシステムが以下の必要条件を満たすことを確認してください。

- ImageManager には Microsoft .NET version 2（またはそれ以降）が必要です。32ビット ImageManager インストーラは .NET が存在しない場合、自動で.NET をインストールします。但し、64ビットインストーラは自動ではインストールしないので、ImageManager をインストールする前に.NET を手動でインストールしてください。

ImageManagerのインストール

1. ImageManager インストーラを開始します。（`ImageManagerSetup.exe`）

   ImageManager インストーラは以下の方法で開始できます。

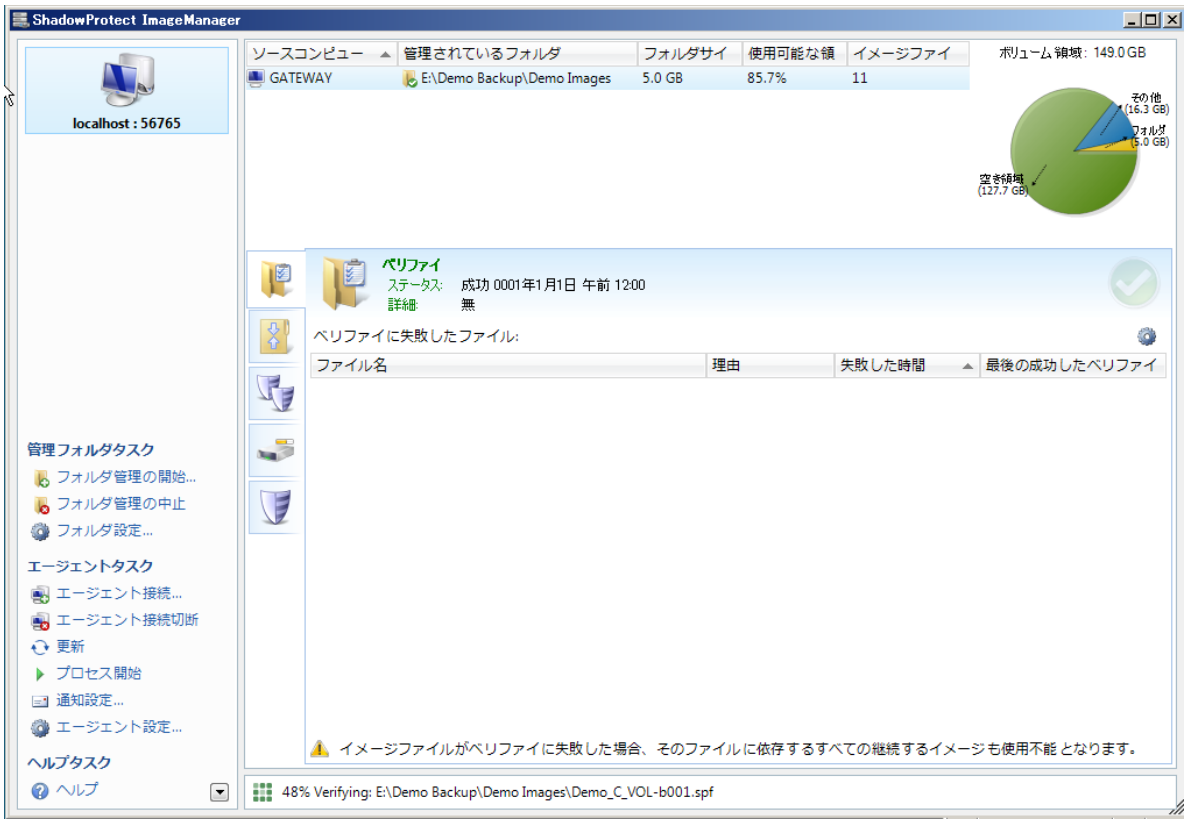
   - **ShadowProtect Recovery CD:** `\Installers\ImageManagerSetup.exe`
   - **ウェブ:** StorageCraft 試用版ダウンロードページ（http://www.storagecraft.com/backup-support.php）
2. 言語を選択して「**OK**」をクリックします。
3. ImageManager インストールウィザードへようこそ画面で「次へ」をクリックします。
4. ウィザードに従って ImageManager をインストールします。
5. インストールが完了した後、「終了」をクリックします。

ImageManager は、スタート> プログラム > **ShadowProtect** > **ShadowProtect ImageManager** で開始します。

注意: ImageManager がインストールされると、ImageManager エージェントは自動でロードされます。ロードされた後、ImageManager エージェントは設定ファイル（`ImageManager.exe.config`）を使用してエージェントパラメータを設定します。必要であれば、この設定ファイルを編集することで ImageManager エージェントが使用するポートを変更することができます。

c2011 StorageCraft Technology Corporation

Chapter 3: ImageManager ユーザインタフェース



ImageManager のインタフェースには以下3つのペインがあります。

- ナビゲーションペイン 10
- 管理フォルダペイン 11
- サービスペイン 12

3.1 ナビゲーションペイン

ナビゲーションペインの左側には、ImageManager エージェントに接続されているマシンが表示されます。ここで選択したエージェントの情報がImageManager のユーザインタフェース上に表示されます。

ナビゲーションペインには、以下のImageManager 機能を使用するためのリンクがあります。

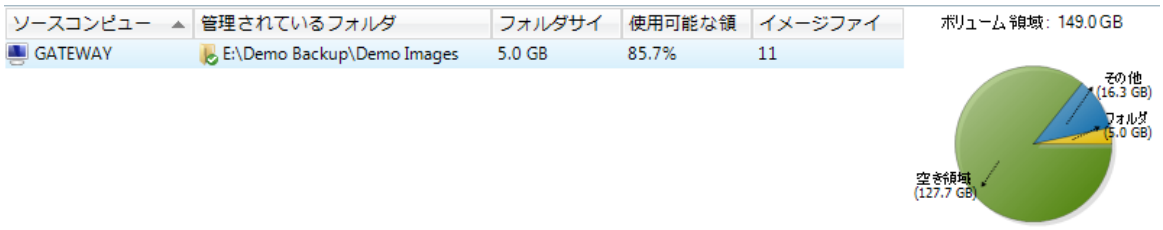
表 16: ナビゲーションペインリンク

リンク	詳細
管理フォルダタスク	
フォルダ管理の開始	ImageManager が管理するバックアップイメージファイルの保存場所を指定する管理フォルダ設定ダイアログを開きます。
フォルダ管理の中止	(管理フォルダペイン内で) 現在指定している管理フォルダを削除します。

リンク	詳細
フォルダ設定	現在指定している管理フォルダを編集する管理フォルダ設定ダイアログを開きます。
ImageManager エージェントタスク	
エージェント接続	システムのImageManager エージェントに接続する接続ペインを開きます。
エージェント切断	現在接続されているImageManager エージェントからImageManager コンソールを切断します。
更新	ImageManager コンソール上に表示されるデータをアップデートします。
プロセス開始	エージェントはベリファイや統合スケジュールを確認して予約設定されているプロジェクトを開始します。
通知設定	ImageManager イベントのEメール通知のパラメータを設定する通知設定ダイアログを開きます。
エージェント設定	ImageManager エージェントの動作を設定するエージェント設定ダイアログを開きます。
ヘルプタスク	
ヘルプ	インターネット接続可能な環境の場合、ImageManager オンラインヘルプを開きます。

3.2 管理フォルダペイン

管理フォルダペインの上中心部には現在接続されているImageManager エージェントの管理フォルダに関する情報が表示されます。リストの管理フォルダを選択すると、フォルダ使用量をグラフで見ることができます。また、ナビゲーションペインやサービスペインの操作はここで選択した管理フォルダに対して行われます。



管理フォルダペインでは以下の情報を確認することができます。

表2: 管理フォルダペインの情報

リンク	詳細
ソースコンピュータ	管理フォルダ内のバックアップイメージファイルが作成されたシステムのコンピュータ名。
管理されているフォルダ	管理フォルダへのパス。
フォルダサイズ	管理フォルダのサイズ。
使用可能な領域	管理フォルダが存在するストレージデバイス上の使用可能な領域のサイズ。 また、管理フォルダペインでは管理フォルダボリュームのストレージスペースをグラフで表示します。
イメージファイル	管理フォルダに含まれているバックアップイメージファイルの数。

3.3 サービスペイン

サービスペイン下中心部では ImageManager サービスにアクセスできます。タブをクリックすることでそれぞれのサービスペインを開くことができます。また、それぞれのペイン内で選択したサービスの詳細情報を参照したり、タスクを実行したりすることができます。

表 3: ImageManager サービス

機能	詳細
ベリファイ	ImageManagerの自動バックアップイメージベリファイ機能に関する情報を表示します。ベリファイペインから以下のタスクを実行することもできます。 **ベリファイ設定の変更**: 自動ベリファイサービスの設定をするベリファイの設定ダイアログを開きます。 詳細はChapter 5: ベリファイ 22 を参照。
統合	ImageManagerの自動イメージファイル統合機能に関する情報を表示します。統合ペインから以下のタスクを実行することもできます。 **ファイル統合設定の変更**: 自動統合サービスの設定をする統合設定ダイアログを開きます。 詳細はChapter 6: 統合 24 を参照。
レプリケーション	ImageManagerの自動バックアップイメージレプリケーション機能に関する情報を表示します。レプリケーションペインから以下のタスクを実行することもできます。 **新規のレプリケーションターゲットを設定**: レプリケーションサービス内で使用するターゲットの場所を設定するレプリケーションターゲット設定ダイアログを開きます。

機能	詳細
	指定したレプリケーションターゲットの削除: 選択したレプリケーションターゲットを削除します。 **指定したレプリケーションターゲットの編集**: 選択したターゲットの設定を変更するためにレプリケーションターゲット設定ダイアログを開きます。 **選択したレプリケーションターゲットの実行**: 選択したターゲットのレプリケーションを再開します。 **選択したレプリケーションターゲットの中止**: 選択したターゲットのレプリケーションを中止します。 詳細はChapter 7: レプリケーション 26 を参照。
HeadStart Restore™	ImageManagerの HeadStart Restore機能に関する情報を表示します。HeadStart Restore ペインから以下のタスクを実行することもできます。 **新規 HeadStart ジョブの作成**: 新規のHeadStart ジョブを設定する HeadStart ジョブ設定ダイアログを開きます。 **選択したHeadStart ジョブの削除**: 選択した HeadStart ジョブを削除します。 **選択したHeadStart ジョブの編集**: 選択したHeadStart ジョブを変更するために HeadStart ジョブ設定ダイアログを開きます。 **選択したHeadStart ジョブの実行**: 選択したHeadStart ジョブを開始します。 **選択したHeadStart ジョブの中止**: 選択したHeadStart ジョブを中止します。 **選択したHeadStart ジョブのボリュームの最終調整**: 復元作業が完了した後に使用するHSR ボリュームを調整するための最終調整ダイアログを開きます。 詳細はChapter 8: HeadStart Restore 29 を参照。
バックアップイメージ	選択した管理フォルダ内のバックアップイメージファイルに関する情報を表示します。バックアップイメージペインでは1日分のバックアップイメージファイルを表示します。特定の日を指定することで、その日に作成されたバックアップイメージファイルを参照できます。 詳細はChapter 9: バックアップイメージファイルの参照 33 を参照。

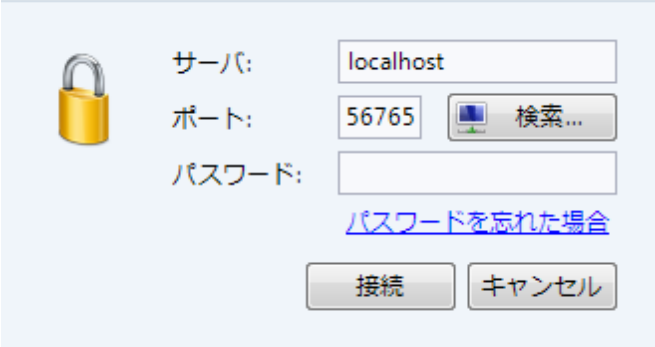
Chapter 4: ImageManager の設定

ImageManager サービスを使用する前に、ImageManager コンソールが管理するシステムにアクセスできるように設定する必要があります。設定タスクは以下の通りになります。

- ImageManager エージェントへの接続 14
- ImageManager エージェントの設定 16
- 管理フォルダの作成 19
- ImageManager 通知の設定 20

4.1 ImageManager エージェントへの接続

バックアップイメージファイルを管理するために、ImageManager コンソールを ImageManager エージェントに接続する必要があります。（複数接続可）



ImageManager エージェントに接続

1. ImageManager コンソールを開始します。

   開始時に ImageManager は接続ダイアログを表示します。

2. 接続ダイアログで必要な情報を入力して「接続」をクリックします。

サーバ	ImageManager エージェントを実行しているシステムの名前か IP アドレス。ImageManager コンソールと同一のシステム上の ImageManager エージェントに接続する場合、「local host」をサーバ名として使用することもできます。 「検索 検索...」をクリックしてコンピュータ名から接続したいシステムをネットワーク検索することができます。
ポート	ImageManager エージェントに接続するために使用される TCP ポート。デフォルトの ImageManager エージェントポートは「6765」です。ImageManager エージェントが使用するポートは `ImageManager\ImageManager.exe.config` ファイルで変更することができます。 **注意:** ImageManager エージェントポートをアクセス可能にするためにファイアウォール設定を変更する必要がある場合があります。
パスワード	ImageManager エージェントのパスワード。

	ImageManager エージェントに初めて接続する際のデフォルトのパスワードは「password」です。最初の接続後、ImageManager のパスワードを変更してください。 パスワードを忘れた場合は、「パスワードを忘れた場合」をクリックしてください。

同時に複数の ImageManager エージェントに接続することも可能です。ナビゲーションペインで「エージェント接続 」をクリックして接続ダイアログを開き、他の ImageManager エージェントに接続します。

エージェントパスワードの再設定

インストール後、初めてImageManager エージェントに接続する場合、デフォルトパスワード「password」を入力します。その後すぐにエージェントパスワードを変更する必要があります。エージェントパスワードを忘れた場合、パスワードを変更するためのツールをサポートから入手することができます。

エージェントパスワードの再設定

1. パスワードの再設定ツールが必要な場合、サポートまでご連絡ください。
2. パスワードの再設定ツールをご希望の場所に展開します。
3. Windows コマンドラインシェル（cmd.exe）を開きます。
4. パスワードの再設定ツールを展開したディレクトリを開き、`ImageManager.resetpassword.exe` を実行します。
5. ImageManager を開始し、デフォルトパスワード「password」を入力し、ImageManager Agent に接続します。
6. デフォルトパスワードを変更する画面で、エージェントパスワードを再設定します。

認証制限

ImageManager コンソールとmageManager エージェントはセキュアTCP接続を利用して伝達するため、コンソールはエージェントの認証をする必要があります。コンソールとエージェントを同一のシステム上または同一のWindowsドメイン内にロードする場合、このプロセスはバックグラウンドで行われます。

コンソールとエージェントを異なるドメインのシステム上またはWindows Workgroup内にロードする場合、エージェントをロードしたシステム上のコンソールが使用するユーザアカウントが必要です。このアカウントはコンソールのロードに使用されるログイン情報（ユーザ名とパスワード）と同一でなければなりません。

例：

コンソールシステム	• MSHOMEワークグループ内 • 「Doe」としてログイン • ImageManager クライアントロード完了
エージェントシステム	• MSHOMEワークグループ内 • ログインしない

c2011 StorageCraft Technology Corporation

	• (Local Systemの元で) ImageManager サービス起動

ImageManager クライアントが ImageManager サービスに接続するためには、サービスシステムに「Doe」ユーザアカウントとクライアントシステム上の「Doe」アカウントのパスワードが必要です。

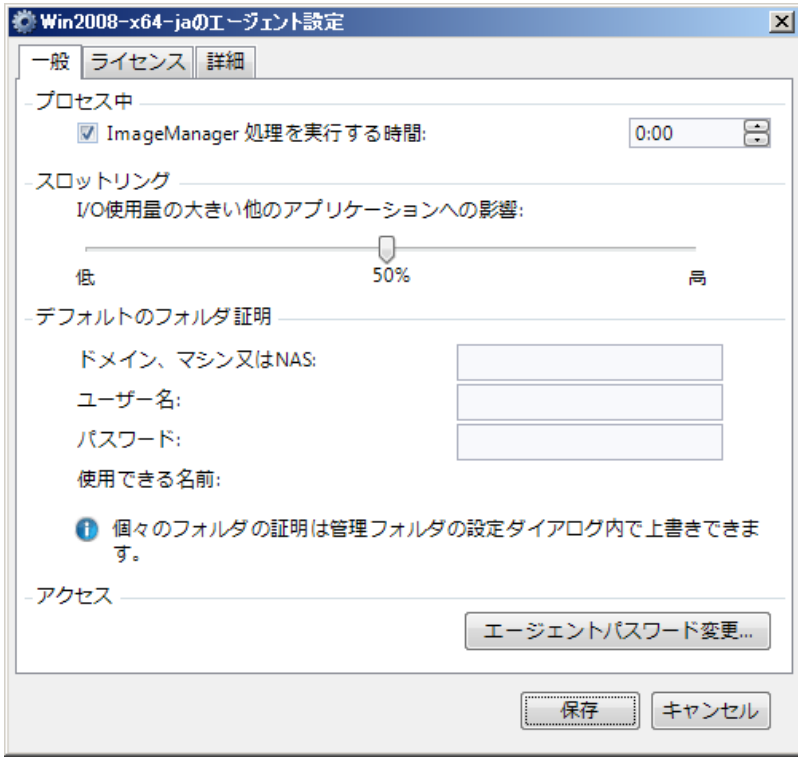
4.2 ImageManager エージェントの設定

ImageManager コンソールから現在接続されている全てのImageManager エージェントの設定を変更することができます。エージェント設定画面には以下の3つのタブがあります。

- 一般 16
- ライセンス 18
- 詳細 19

一般

「一般」タブで ImageManager エージェントプロパティを設定できます。



ImageManager エージェントプロパティの変更

1. ImageManager コンソールを開始します。
2. ナビゲーションペインで「**エージェント設定**」をクリックします。
3. エージェント設定ダイアログで必要な情報を入力し、「保存」をクリックします。

プロセス中	ImageManager エージェントがその日の照合や統合操作を実行する時間を指定します。 (デフォルト: 12:00 AMに実行)

	この設定を無効にすると、ImageManager エージェントの自動再ベリファイ機能と統合機能も無効になります。但し、ナビゲーションペインの「プロセス開始」をクリックすることで ImageManager エージェントを手動で開始することもできます。 (Section 3.1: ナビゲーションペイン 10 参照)
スロットリング	ImageManager エージェント操作に適用される I/O 帯域。
デフォルトのフォルダ証明	管理フォルダにアクセスするために ImageManager エージェントが使用するデフォルトの許可証明。必要であれば、特定の管理フォルダごとに変更することもできます。 (管理フォルダの作成 19 参照)
アクセス	「エージェントパスワード変更」をクリックして、ImageManager エージェントにアクセスするためのパスワードをアップデートします。

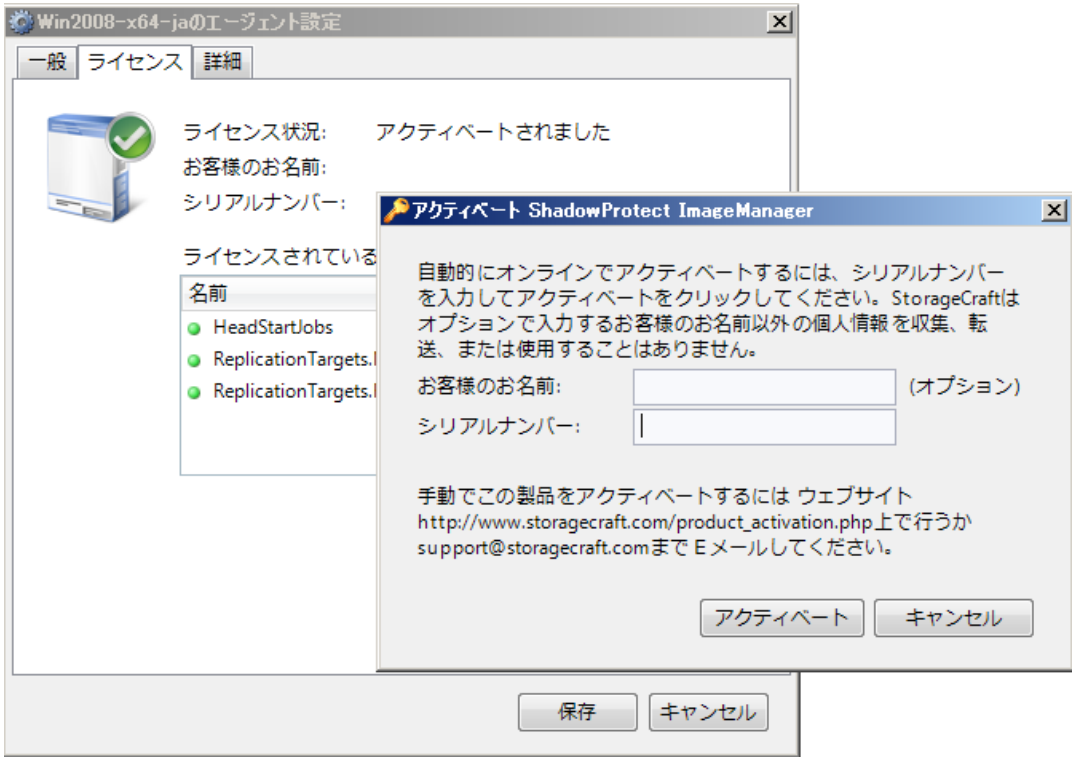
注意: 設定ファイル ImageManager\ImageManager.exe.config を変更することで ImageManager エージェントポート設定を変更できます。

ライセンス

「ライセンス」タブではシリアルナンバーを入力してHeadStart Restore やオフサイトレプリケーション等、ImageManager エンタープライズ機能（IME）をアクティベートすることができます。（ImageManager 機能 6 参照）

IME はジョブ単位でライセンスされます。このプレミアム機能はHeadStart Restore とオフサイトレプリケーションをそれぞれ1回ずつの使用で1ジョブとしてカウントします。例えば、5ジョブパックを購入した場合、HeadStart Restore を5回、リモートレプリケーションを5回使用できます。

注意: IME ジョブライセンスは 1台のマシン上でのみ、ご利用いただけます。ジョブパックを複数のマシンに分けて利用することはできません。



ImageManager エンタープライズ機能のアクティベート

1. エージェント設定画面のライセンスタブで「アクティベート」をクリックします。
2. ShadowProtect ImageManager アクティベートダイアログで必要な情報を入力し、「アクティベート」ボタンをクリックします。

   お客様のお名前: （オプション）製品購入者の名前を入力。（個人、法人問わない）

   シリアルナンバー: ImageManager エンタープライズを購入した際に受け取ったシリアルナンバーを入力。
3. アクティベーションが成功すると、ShadowProtect はその旨を表示します。
   a. アクティベーションが成功した場合、「OK」をクリックします。
   b. アクティベーションが失敗した場合、表示されたメッセージから失敗した理由を確認しま

す。

i. 製品アクティベーションダイアログで正確な情報が入力されたか確認してください。エラーがあれば、正しい情報を入力して、再度「アクティベート」をクリックします。

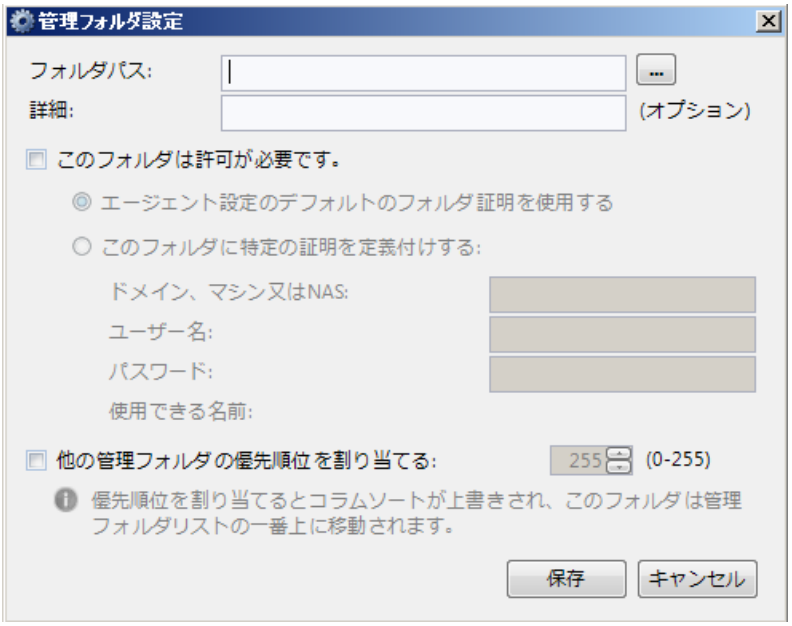
ii. 使用中のコンピュータがアクティベーションサーバやインターネットに正しく接続されない場合、しばらく待って再度アクティベーションを行ってください。また、http://www.storagecraft.com/product_activation.php やStorageCraft サポートに連絡してImageManager エンタープライズを手動でアクティベートすることもできます。

詳細

「詳細」タブではImageManager エージェントのバージョン情報を表示します。

4.3 管理フォルダの作成

バックアップイメージファイルを管理するためには、ImageManager コンソールをImageManager エージェントに接続する必要があります。（複数接続可）



新規管理フォルダの作成

1. ImageManager コンソールを開始します。
2. ナビゲーションペインで「フォルダ管理の開始」をクリックします。
3. 管理フォルダ設定ダイアログで必要事項を入力して、「保存」をクリックします。

フォルダパス	新規の管理フォルダのパス。パスを入力することも検索することもできます。
詳細	（オプション）管理フォルダの詳細。
認証	（条件付き）管理フォルダにアクセスするための認証。ImageManager エージェント設定で指定したデフォルトのクレデンシャルか（ImageManagerエージェントの設定 16 参照）また

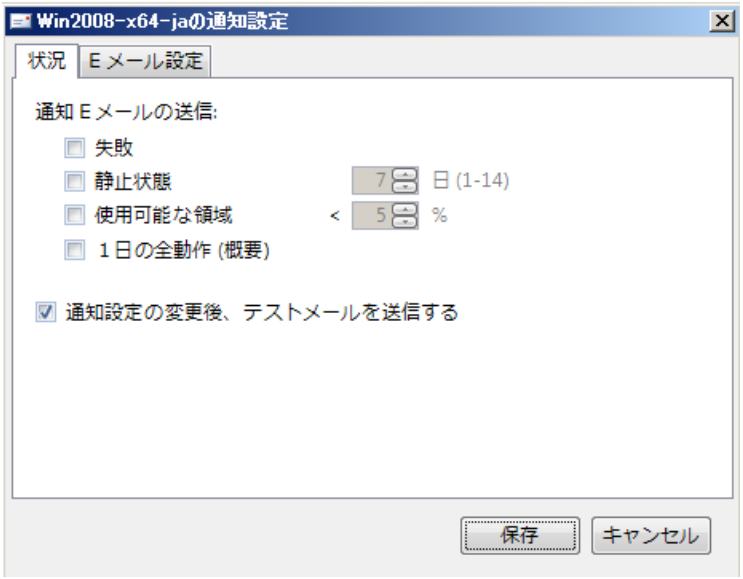
	は管理フォルダに特定した認証を使用することができます。
管理フォルダの優先順位を割り当てる	有効の場合、ImageManager は指定したソート順 (0-255) に基づいて、管理フォルダペイン内の管理フォルダをソートします。ImageManager は昇順で管理フォルダをソートします。 (デフォルト: 無効)

4.4 ImageManager 通知の設定

ImageManager は特定のイベントが起こった際、自動でEメール通知を送信します。

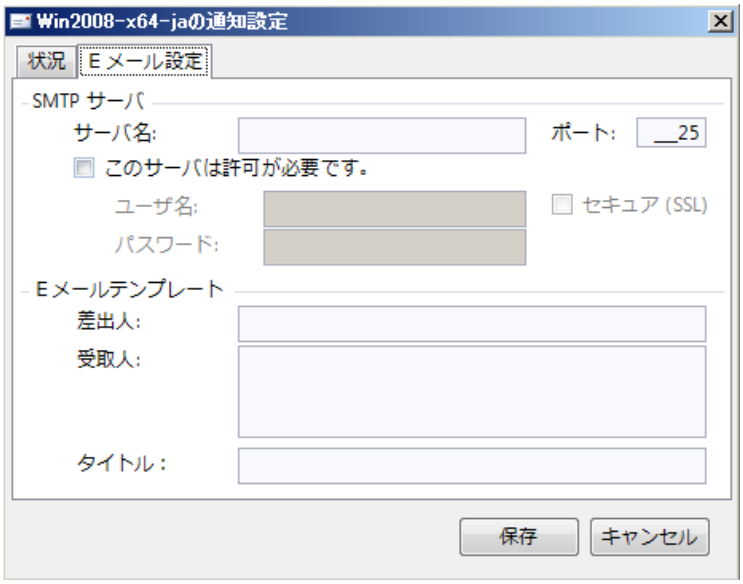
通知設定の変更

1. ImageManager コンソールを開始します。
2. ナビゲーションペインで「通知設定」をクリックします。
3. 通知設定ダイアログで「条件」タブを選択して、Eメール通知を受け取りたいイベントを選びます。



失敗	ImageManager の操作に失敗した場合、Eメールを送信します。
休止状態	ImageManager エージェントが指定した日数全く動作していない場合、Eメールを送信します。
空き領域	管理フォルダの空き領域が指定したパーセンテージを下回った場合、Eメールを送信します。
一日の全動作 (概要)	一日のImageManager 操作のサマリーのEメールを送信します。
通知設定の変更後、テストメールの送信する	ImageManager 通知設定が変更された場合、Eメールを送信します。

4. 通知設定ダイアログで **「Eメール設定」**タブをクリックして、Eメール通知を受信するEメールアカウントを指定します。

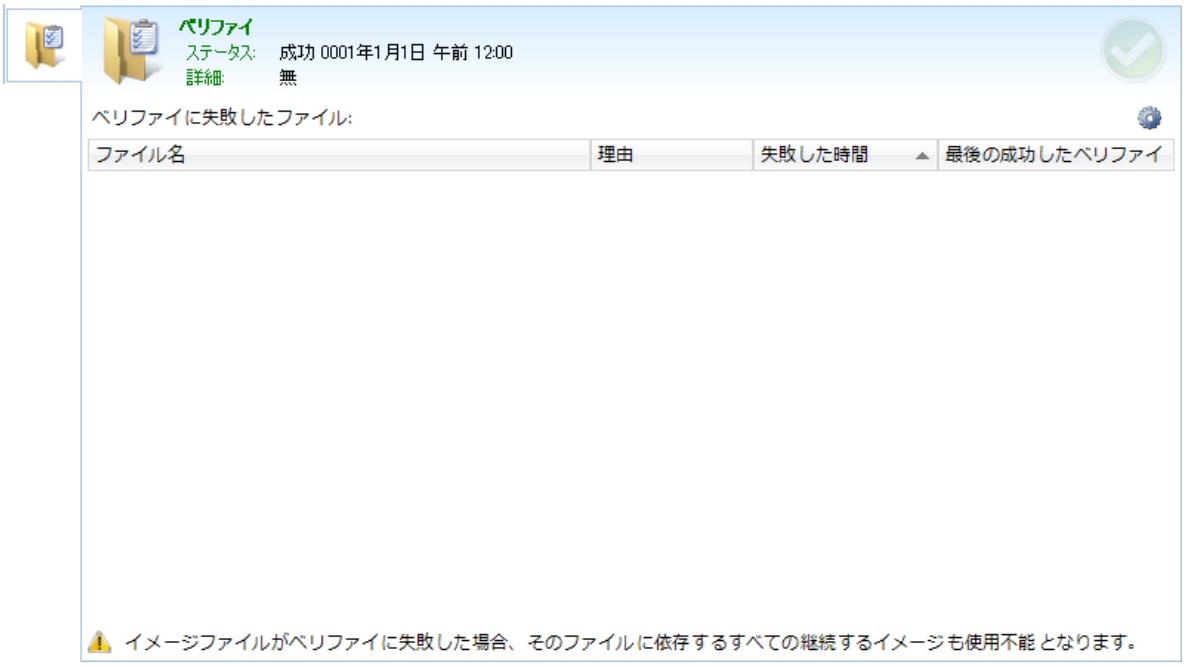


SMTP サーバ	ImageManager がEメール通知送信に使用するSMTP サーバ名とポート。必要であれば、SMTPサーバの有効な許可証明も入力できます。セキュア接続でEメールを送信する場合、**SSL** を選んでください。
Eメールテンプレート	Eメール設定。Eメール受信者や、必要であれば通知Eメールの送信者名やタイトルの設定もできます。

5. 「保存」をクリックします。

Chapter 5: ベリファイ

ImageManager ベリファイ機能はバックアップイメージファイルの整合性を定期的にテストします。この機能は手動で行うShadowProtect のベリファイウィザードと同様の機能です。（ShadowProtect ユーザガイド内の「バックアップイメージファイルのベリファイ」参照）ImageManager のベリファイペインでベリファイ機能の設定を行うことができます。



デフォルトでベリファイ機能が有効になっていますが、特定のベリファイ機能は管理フォルダごと設定できます。

ベリファイ機能の設定

1. ImageManager コンソールを開始します。
2. 管理フォルダペインで設定する管理フォルダを選択します。
3. サービスペインで「ベリファイ」を選択します。
4. ベリファイペインで「ベリファイ設定の変更」を選択します。
5. ベリファイ設定ダイアログで必要な情報を入力して、「保存」をクリックします。

新規にイメージファイルが作成された場合、すぐベリファイする	バックアップイメージファイルが作成されるとすぐにImageManagerはベリファイを実行します。（デフォルト: 有効）
既存のイメージファイルを定期的に再ベリファイする	ImageManager は定期的に管理フォルダ内のバックアップイメージファイルを再ベリファイします。再ベリファイの間隔は1日～30日の間で設定できます。（デフォルト: 7日に1回再ベリファイ）
ベリファイ時、デフォルト設定のスロットルを	ベリファイ実行時にImageManager エージェントが使用する処理リソースを管理します。処理リソースが多く設定されていればベリファイ操作は早くなりますが、他のシステム操作の速度

c2011 StorageCraft Technology Corporation

上書きする	に影響がでます。 (デフォルト: 無効) この設定が無効にされている場合、エージェントはエージェント設定内のスロットリング設定で指定されているI/O帯域に従って操作を行います。 (エージェント設定内の一般[16]タブ参照。)

Chapter 6: 統合

ImageManager 統合機能を使用して定期的に増分バックアップイメージファイルを統合バックアップイメージファイルに纏めることができます。この統合機能によってシステム復元に必要なファイルチェーンのサイズを減らすことができます。ファイルが少ないほどチェーン内に不具合が生じる可能性が低くなります。

ImageManager 統合ペインで統合機能の設定を行うことができます。

ImageManager には以下、3つの統合ファイルタイプがあります。

- **日次統合ファイル:** 1日の終わりに ImageManager はその日に作成された全ての増分バックアップイメージファイルを1つのPoint-In-Time 増分イメージファイルにまとめます。このファイルにはその日にシステムに起こった全てのアップデートが含まれています。毎日統合ファイルにはファイル名に「cd」が含まれます。 例：D_VOL-b001-i005-cd.spi）
- **週次統合ファイル:** 1週間の終わりに ImageManager はその週に作成された全ての毎日統合ファイルを1つのPoint-In-Time 増分イメージファイルにまとめます。このファイルにはその週にシステムに起こった全てのアップデートが含まれています。毎週統合ファイルにはファイル名に「cw」が含まれます。 例：D_VOL-b001-i026-cw.spi）
- **月次統合ファイル:** 1ヶ月の終わりに ImageManager はその月に作成された全ての毎週統合ファイルを1つのPoint-In-Time 増分イメージファイルにまとめます。このファイルにはその月にシステムに起こった全てのアップデートが含まれています。毎月統合ファイルにはファイル名に「cm」が含まれます。 例：D_VOL-b001-i097-cm.spi）

統合機能の設定

1. ImageManager コンソールを開始します。

2. 管理フォルダペインで設定する管理フォルダを選択します。
3. サービスペインで「統合」を選択します。
4. 統合ペインで「統合設定の変更」を選択します。
5. 「この場所でイメージファイル統合機能を有効にする」を選択します。

   このオプションはデフォルトでImageManager 統合機能が現在指定している管理フォルダに対して有効に設定されています。
6. 統合設定ダイアログで「保持」タブを選択し、使用したい設定オプションを指定します。

日次イメージファイルを保持する日数	毎日統合ファイルにまとめられた増分イメージファイルを保存する最低日数。（デフォルト: 30日間）
日次統合イメージファイルを保持する日数（-cd）	毎週統合ファイルにまとめられた毎日統合ファイルを保存する最低日数。（デフォルト: 90 日間）
週次統合イメージファイルを保持する日数（-cw）	毎月統合ファイルにまとめられた毎週統合ファイルを保存する最低日数。（デフォルト: 180日間）
統合したイメージファイルを削除せず、サブディレクトリに移動する	統合操作完了後、ImageManager は元のバックアップイメージファイルを削除するのではなく、管理フォルダのサブディレクトリ（Incrementals）に移動します。（デフォルト: 有効） **注意:** Incrementals フォルダ内の増分ファイルは元の完全イメージを欠如しているため、このIncremental フォルダから復元しないでください。

7. 統合設定ダイアログで「スケジュール」を選び、使用したい設定オプションを指定します。

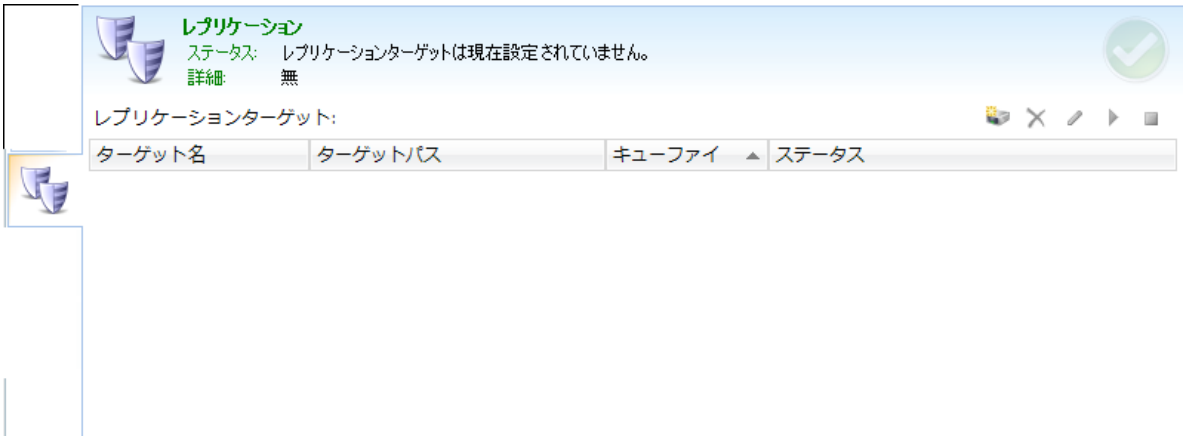
週次統合	週次統合バックアップイメージファイルを作成するのに最終日として指定したい曜日を選びます。（デフォルト:土曜日）
月次統合	月次統合バックアップイメージファイルを作成するのに最終日として指定したい日にちを選びます。特定日を選択することも特定の週の特定の曜日を指定することもできます。（例 :毎月最後の金曜日、第四月曜日など）（デフォルト:毎月最終日）

8. 「保存」をクリックして統合設定画面を閉じます。

c2011 StorageCraft Technology Corporation

Chapter 7: レプリケーション

ImageManager レプリケーション機能は自動でバックアップイメージのコピーを他の場所に作成します。ImageManager レプリケーションペインでレプリケーション機能の設定を行うことができます。



完全なディザスタリカバリに必要なバックアップイメージファイルのみをレプリケートするように、レプリケーションプロセスの一部としてImageManager レプリケーション機能はすでに設定されている保持ポリシーや他の ShadowProtect の設定に従います。

レプリケーション機能を活用するポイントは、レプリケーションターゲットを指定することです。「レプリケーションターゲット」はコピーファイルの出力先とImageManager がいつ、どのようにファイルをレプリケートするかを指定するレプリケーションモードを設定します。

レプリケーションターゲットの設定

1. ImageManager コンソールを開きます。
2. サービスペインで「**レプリケーション** 」を選択します。
3. レプリケーションペインで **新規のレプリケーションターゲットを設定する** 」を選択します。
4. レプリケーションターゲット設定ダイアログで「出力先」タブを選び、使用したい設定オプションを指定します。

形式	レプリケーションターゲットのタイプを指定します。以下のオプションから選択します。 (デフォルト: ローカルドライブ) **ローカルドライブ**: レプリケーションターゲットがローカルシステムの場合。(例 :外付けハードドライブ等) **ネットワークドライブ**: レプリケーションターゲットがローカルネットワーク(LAN) を通してアクセスできる場合。 **リモートサイト**: レプリケーションターゲットがFTP上にある場合。 **注意**: ネットワークドライブとリモートサイトレプリケーションターゲットは ImageManager エンタープライズライセンスを別途購入し、投入した後にご利用いただけます。

セキュリティ	（条件付き）上記のタイプがリモートサイトの場合のみ使用します。FTPサーバに接続する際に使用するセキュリティ接続のタイプを指定します。None, SSL, SSHから選びます。
名前	（オプション）レプリケーションターゲットの名前を指定します。
パス	レプリケーションターゲットのパスを指定します。タイプによってパス形式は変わります。 例： **ローカルドライブ:** `E:\Replicate` **ネットワークドライブ:** `\\serv1\Backup\Replicate` **リモートサイト:** `ftp.corp1.com/replicate`
このターゲットは許可が必要です	ネットワークやリモートサイトレプリケーションターゲットを使用する場合、ネットワークリソースやFTPサーバにアクセスするための認証許可を入力します。
ベースイメージファイルのレプリケーションを作成しない	レプリケーション操作の一部としてImageManager がベースバックアップイメージファイルをレプリケートしないように設定します。（デフォルト: ローカルとネットワークは無効、リモートでは有効）

5. レプリケーションターゲット設定ダイアログで「レプリケーションモード」タブを選び、使用したい設定オプションを指定します。

   1つの管理フォルダから他のシステムの管理フォルダにレプリケートすることでバックアップイメージファイルの統合操作を分配することができます。これにより、1つのシステムで日次統合を実行し、他のシステムで週次や月次統合を実行できます。レプリケーションモードタブではImageManager統合機能のレプリケーション設定を行うことができます。

いいえ。すべての統合ファイルのレプリケーションを作成する	ImageManagerによって管理されていないフォルダにレプリケートする場合にこのオプションを選択します。このオプションが有効な場合、以下のオプションを設定できます。（デフォルト: 有効） －元の統合されていないイメージファイルもレプリケーションを作成（デフォルト: 無効） －ImageManager がバックアップイメージファイルを削除した場合、レプリケーションターゲットからも同じファイルを削除します。（デフォルト: 有効）
はい。日次イメージファイルか統合された日次イメージファイルのみ、レプリケーションを作成する	レプリケーションターゲットが ImageManager の管理フォルダでもある場合に使用します。このオプションが有効な場合、以下のオプションを設定できます。（デフォルト: 無効） 元の統合していないファイルのレプリケーションを作成。（デフォルト: 有効）これにより、ソースの管理フォルダではなく、レプリケーションターゲットでファイル統合を実行できます。 日次統合イメージファイルのみレプリケーションを作成。（デフォルト: 無効）これにより、統合操作をソースの管理フォルダ（日次統合）とレプリケーションターゲット（週次、月次統合）の間で分担することができます。

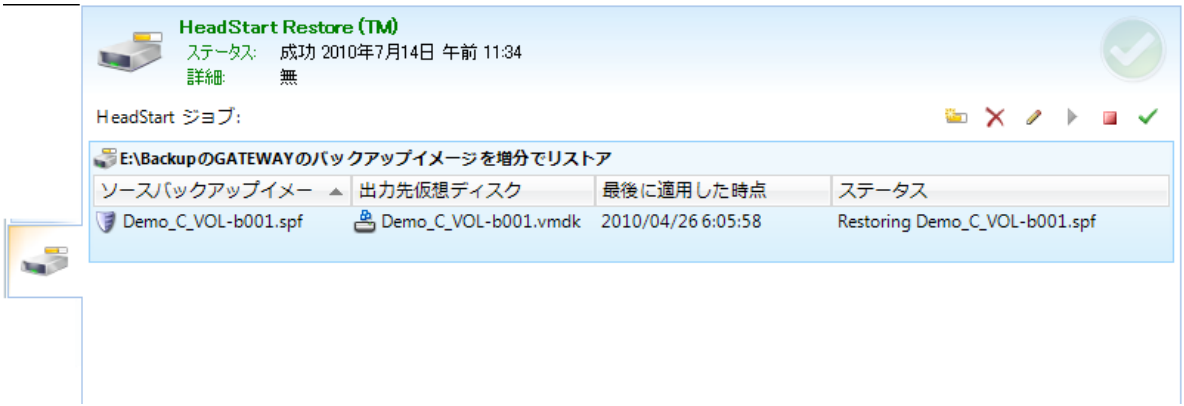
6. 「保存」をクリックしてレプリケーションターゲット設定ダイアログを閉じます。

注意: レプリケーションペインで使用できるほかのアイコンについての詳細はSection 3.3: サービスペイン 12 を参照してください。

Chapter 8: HeadStart Restore

ImageManager HeadStart Restore （HSR）機能はShadowProtect が継続的に増分バックアップイメージファイルをイメージチェーンに作成し続けるのと同時に、復元操作を開始することができます。これにより、巨大なストレージシステム （数TB）を持つシステムに不具合が発生した場合等、ダウンタイムをできる限り抑えることができます。HSR の使用についての詳細はSection 2.2: Head Start Restore 7 使用例を参照してください。

ImageManager HeadStart Restore ペインからアクセスできます。



HSR には以下のタスクがあります。

- HeadStart ジョブの作成 29
- HeadStart ジョブの最終調整 31

注意: HeadStart Restore ペイン内の他のアイコンについての詳細はSection 3.3: サービスペイン 12 を参照してください。

8.1 HeadStart ジョブの作成

HeadStart Restore ペインから特定の復元操作を設定する HeadStart ジョブを作成します。

HeadStart ジョブの作成

1. ImageManager コンソールを開始します。
2. サービスペインで 「**HeadStart Restore** 」**をクリックします。**
3. HeadStart Restore ペインで 新規の **HeadStart ジョブの作成** 」**をクリックします。**
4. HeadStart ジョブ設定画面で 「一般」タブを選び、使用したい設定を選んでください。

形式	HeadStart Restore で作成する仮想マシンのファイル形式。

	サポートされるオプション： **VMWare VMDK:** VMWare 仮想環境用のVMDKファイル形式に復元。 **Microsoft VHD:** Microsoft Hyper-V 仮想環境用のVHDファイル形式に復元。
名前	（オプション）HeadStart ジョブの名前。
パス	仮想ディスクファイルを作成するフォルダ
認証	指定したフォルダにアクセスするために許可が必要な場合に認証を設定します。（デフォルト: 無効）（ドメイン/コンピュータ/NAS 名、ユーザ名、パスワード）
HeadStart ボリューム	現在指定している選択したジョブ用の HeadStart ボリュームを表示します。HeadStart ボリュームとは、ソースバックアップイメージと仮想ディスクファイルの出力先を意味します。 **HeadStart ボリュームの作成** a. 「**HeadStart ボリューム**」を選択します。 b. ベースバックアップイメージ画面で HeadStart ジョブに使用するベースバックアップイメージを選択します。 c. 必要があれば、バックアップイメージファイルのパスワードを入力します。 d. 「**OK**」をクリックします。 **注意:** HeadStart ジョブを保存した後は、パスワードの更新以外の HeadStart ジョブ設定を変更することはできません。 HeadStart ボリュームには作成されたボリューム管理用に以下2つのアイコンがあります。 指定した HeadStart ボリュームを削除します。 出力先ファイル名やバックアップイメージファイルにアクセスするためのパスワードの変更のために、HeadStart ターゲット画面を開きます。

5. HeadStart ジョブ設定画面で「オプション」タブを選択し、使用する設定オプションを選びます。

ラグタイム	HeadStart ジョブのラグタイム。1～23時間か1～30日の間隔で設定できます。 ラグタイムとは、ShadowProtectが新規の増分バックアップを作成してから HeadStart Restore機能がそのバックアップをHeadStartボリュームに適用する間の時間差分を意味します。これは問題が起こった時に、増分バックアップがHeadStart ボリュームに適用される前に原因追求する時間を稼ぐためです。（システムエラー、故障、ウィルス感染等。）

6. 「保存」をクリックしてHeadStart ジョブ作成画面を閉じます。

一度作成すると、ImageManager は HeadStart ジョブを実行してHeadStart ジョブリストに表示します。

HeadStart Restore ペインにはHeadStart Restore ジョブ管理に使用する以下のアイコンがあります。

	指定したHeadStart ジョブを削除します。
	指定したHeadStart ジョブを編集します。
	指定したHeadStart ジョブを実行します。
	指定したHeadStart ジョブを中止します。
	HeadStart ジョブの最終調整を実行します。（HeadStart ジョブの最終調整 31 を参照）

8.2 HeadStart ジョブの最終調整

HSR ジョブは作成され、有効にされた後、バックアップイメージファイルからボリュームの復元操作を開始します。ただ、この復元ボリュームには仮想ディスクファイルが含まれているため、最終調整を実行しなければ使用できません。これはユーザが復元操作を完了する前に間違えてボリュームにアクセスしてしまうのを防ぐためです。

HeadStart ジョブの最終調整

1. ImageManager コンソールを開始します。
2. サービスペインで「**HeadStart Restore** 」を選択します。
3. HeadStart Restore ペインで「**HeadStart ジョブのターゲットを最終調整** 」を選択します。
4. 最終調整ダイアログで必要事項を入力して「最終調整」をクリックします。

HeadStart ボリューム	最終調整を行うHeadStart ボリュームを選択します。（複数選択可）
最終調整を実施するタイミング	それぞれの HeadStart ボリュームごとに、最終調整を実行する日時を指定します。最終調整後、復元されたボリュームはここで指定した日時の瞬間の状態を維持します。 最新の増分バックアップを含む復元ボリュームを最終調整する場合は、「自動で最新のバックアップイメージを選ぶ」を選択してください。

最終調整が完了した後、仮想ディスクファイルを仮想マシンで使用できるように以下の方法を実行してください。

- 復元したボリュームが起動可能なボリュームの場合、仮想ディスクファイル内のハードウェア設定が仮想マシン内の設定に合致するように、StorageCraft Recovery Environment を起動し、ハードウェア非依存の復元（HIR）を実行してください。Recovery Environment は仮想ディスクを上記の操作ができるように使用可能なドライブとして表示します。Recovery Environment とハードウェア非依存の復元に関する詳細はRecovery Environment ユーザガイドを参照してください。

- 仮想ディスクファイルを仮想マシンに追加します。仮想マシンソフトウェアによってこのプロセスの詳細は異なりますので、ご使用の仮想マシンの取扱説明書に従ってください。

c2011 StorageCraft Technology Corporation

Chapter 9: バックアップイメージファイルの参照

ImageManager バックアップイメージファイルペインではバックアップイメージファイル作成履歴を閲覧することができます。

既存のバックアップイメージファイルの参照

1. ImageManager コンソールを開始します。
2. サービスペインで「バックアップイメージ」を選択します。
3. バックアップイメージペインで参照したいバックアップイメージファイルを指定します。

   以下の方法で選択した管理フォルダ内のバックアップイメージファイルを参照することができます。

   - 左矢印と右矢印で日付ごとに参照します。現在の日付のバックアップイメージがデフォルトで表示されます。
   - 下矢印でカレンダーを開いて特定の日付を選ぶこともできます。
   - 日付ごとにImageManager は選択した管理フォルダ内で作成されたバックアップイメージファイルの時間を表示します。
   - 表示された中から特定の時間を選ぶと、その時間に作成されたバックアップイメージファイルの一覧が表示されます。

Chapter 10: 用語解説

ExactState™ イメージング
コンピュータのバックアップを作成するのに最適な状態（たとえばオープンされたファイルがまったく無い状態）で、バックアップイメージを作成することができる機能。

HeadStart Restore （HSR）: ShadowProtectが増分バックアップイメージファイルを継続して追加するのと同時に、同一バックアップイメージチェーンの復元操作を開始する機能。これにより、数日から数週間かかっていた巨大なボリュームの復元も数時間に抑えることができる。

Microsoft VolSnap
Microsoft のVSS プロバイダ。

Microsoft Volume Shadow Copy Service （VSS）
Microsoft Windows XP 及び Windows Server 2003 以降のオペレーティングシステム上から利用可能なバックアップ基盤。一貫したデータの Point-In-Time コピーを作成するためのメカニズムが提供される。Volume Shadow Copy Service （ボリュームシャドウコピーサービス）は、ビジネスアプリケーション、ファイルシステムサービス、バックアップアプリケーション、高速復元ソリューション、ストレージハードウェアと共に利用する事により、一貫したスナップショットを取得する事ができる。

Point-In-Time バックアップ
Point-In-Time バックアップは、特定の時点にファイル、フォルダ、あるいはシステム全体のバックアップを行う機能。これらのバックアップは、コンピュータに問題が無かった時点へ復元するために使用される。

RAID
*Redundant Array of Independent Disksの略。*パーフォーマンスの向上とフォールトトレランスを実現したディスクドライブの統合システム。RAID には、幾つかのレベルがあり、主に使用されているのは、以下に挙げる0、1、5 の3 レベル。

- レベル0：パリティ無しストライピング （複数のディスクにまたがってファイルのブロックを展開）
- レベル1：ディスクのミラーリング、または二重化
- レベル5：ブロック単位でのパリティ分散記録

Recovery Environment
StorageCraft Recovery Environment を参照。

StorageCraft Recovery Environment （SRE）
ネットワーク上のバックアップイメージファイルにアクセスし、復元するために必要な機能を提供する補助的な起動環境（もしくはオペレーティングシステム）。この環境は、ドライブが Windows から復元が出来ない場合、もしくはシステムに重大な障害が発生し、全てのハードディスクを復元する必要がある場合に利用する。

UNC （Universal Naming Convention）
ネットワークコンピュータ上のフォルダ、ファイル、プログラムを見分けるのに利用される機能。UNC パスは、二つの「\」で始まり、サーバ名、シェアネーム、「¥」で区切られたディレクトリ、およびファイル名で構成される。
例 \\server_name\share_name\backup_name.spi

VirtualBoot: 既存のバックアップイメージチェーンに基づいて仮想マシンを作成する機能。この仮想マシンに含まれている最終の増分イメージの状態の元のシステムのデータ、アプリケーション、サービス等にアクセスできる。Onc

VSS サポート
一貫したデータバックアップを保障するために Microsoft Volume Shadow Copy Service （VSS）フレームワークをサポートするアプリケーション。

圧縮
ファイルのサイズを削減する技術。時間、ネットワークの帯域幅 （トラフィック量、ストレージ領域）を節約する。

暗号化
許可のない人からファイルが参照出来ない様に、ファイルの内容を簡単に解読できない様にする手続き。

イメージ、イメージファイル
イメージは、コンピュータシステムのバックアップをとる目的でハードディスクの全ての内容を含んでいるファイル。コンピュータシステムを復元する場合に使用される。

c2011 StorageCraft Technology Corporation

イメージ セット
ドライブをバックアップするためにベースイメージと増分イメージを利用する場合のベースイメージと増分イメージの組み合わせ。あるイメージを復元したい場合、ベースイメージと全ての増分イメージが、システムやボリュームを復元する時点で利用される。

オペレーティング システム
オペレーティングシステム（OSと省略される場合がある）は、始めに起動プログラムによってコンピュータに読み込まれた後、コンピュータ上の全てのプログラムを管理するプログラム。オペレーティングシステム以外のプログラムは、アプリケーションあるいはアプリケーションプログラムと呼ばれる。

仮想プライベートネットワーク（VPN）
公衆回線を利用して、第三者がデータを盗聴することができないネットワークを構築する技術。VPN は、トンネリングプロトコル、暗号化技術、またその他のセキュリティ手法によって秘匿性を維持する。

仮想ボリューム
参照はできるが、システム上に物理的に存在しないボリューム。ShadowProtect では、コンピュータシステムを保護する目的で仮想ボリュームを利用している。

完全イメージファイル
「ベースイメージファイル」を参照。

コールドバックアップ
コンピュータのオペレーティングシステム上からではなく、Recovery Environment からとったバックアップ。

サービス
特に低レベル（ハードウェアに近い）で、他のプログラムをサポートするための特定のシステム関数を実行するルーチン、もしくはプロセスの事を指す。

差分イメージファイル
最後にバックアップイメージファイルが作成されてから変更があった、ハードドライブのセクタを含むバックアップファイル。差分バックアップファイルの作成にはベースバックアップの作成と同じくらいの時間がかかるが、ファイルサイズは小さくなる。差分を利用して、指定した時点にドライブ（もしくはファイルやフォルダ）を復元する場合、システムもしくはボリュームを復元する場合は、ベースイメージとその差分イメージが必要。

システム ダウンタイム
サーバ、もしくは PC がオフラインの状態で、アプリケーションが起動不可能、あるいはシステムのリソースを利用することが不可能な時間。

システム ボリューム
オペレーティングシステムを起動するための起動ファイルを配置しているボリューム。通常、これは「C:\」のボリューム。

障害復旧
物理的な障害や悪意のあるプログラムによる障害に関わらず、コンピュータの障害からの復旧を可能すること。通常、障害復旧はデータ等のコピー、バックアップ／復元等を含む障害の解決手法を指す。

スケジュール ジョブ
ShadowProtect インターフェース内で作られたジョブ。スケジュールジョブを作成する事により、ジョブを自動的に開始させる。

スナップショット（Snapshot）
ボリュームのある特定の時点における状態を記録したバックアップの種類。バックアップ、もしくはスケジュールバックアップを実行した場合、ShadowProtect は、ボリュームのスナップショット（Snapshot）を取得するのに、StorageCraft Volume Snapshot Manager（VSM）、もしくは Microsoft Volume Shadow Copy Service（VSS）を利用する。スナップショット取得後にボリュームに対して行われた変更は、そのバックアップには含まれない。

増分イメージファイル
最後にバックアップが取得された時点から、変更されたセクタを含むバックアップファイル。増分イメージは完全バックアップに比べて非常に早く作成でき、またディスクスペースも消費しない。ドライブ（またはファイルやフォルダ）を復元する際、ベースイメージファイルと共に、コンピュータをある特定時点に戻すために必要な増分イメージファイルを使用する必要がある。

ダイナミックディスク
ベーシックディスクにはない、複数のディスク上のボリュームから1つのボリュームを構成するなどの機能を提供する物理ディスク。ダイナミックディスクは、隠しデータベースを利用してディスク上にあるダイナミックボリュームやコンピュータ上の別のダイナミックディスクに関する情報を記録する。

c2011 StorageCraft Technology Corporation

ディスクデバイス
ローカルのディスクドライブ、USBやFireWireディスクドライブ、SAN、NAS、iSCSI、SCSI、USB、FireWire を含む、ディスクドライブと同様の動作をするネットワークドライブ。

ドライバ
特定のデバイスやソフトウェアとインタラクトするプログラム。ドライバはほかのコンピュータシステムや別のユーザからデバイスやソフトウェアにアクセスできる共通のインターフェースを持っている。

ドライブレター
「ドライブレターへマウントする」を参照してください。

ドライブレターにマウントする
Microsoft オペレーティングシステムにより、ファイルシステムのルートネームスペース内のレターにボリューム（有効なプライマリパーティションや論理パーティション）を一致させるプロセス。ユーザがフォルダネームスペースで任意の名前と内容のディレクトリを作成できるマウントポイントとは異なり、割り当てられたドライブレターだけが、ネームスペースにあり、割り当てられたドライブレターはボリュームを表す。

トレイ アイコン
コンピュータプログラム、あるいはアプリケーションのアイコン。例えば、ShadowProtect は、プログラムについて多くの情報を提供するために、トレイアイコンを使用している。トレイアイコンはロードされると、タスクトレイに配置される。

パーティション
物理ディスクの分割された一部分。パーティションは、あたかも物理的に分割されたディスクであるかのように機能する。作成されたパーティションにデータを格納するためには、フォーマットしてドライブレターを振り分けなければならない。ベーシックディスクでは、パーティションはベーシックボリュームを含むことができる。ベーシックディスクのパーティションには、プライマリパーティションと論理パーティションがある。ダイナミックディスクでは、パーティションはダイナミックボリュームを含む。ダイナミックボリュームには、シンプル、ストライプ、スパン、ミラー、RAID5（パリティ付きストライプ）といった種類がある。

ハードディスク
磁性ストレージデバイス。『ディスクドライブ』、『ハードドライブ』、『ハードディスクドライブ』とも呼ばる。コンピュータ上にデータを保存し、データへのアクセスを提供する。

バックアップ
装置の故障、もしくは他の重大な障害が起きた場合に、ファイル、もしくはデータベースを保護するために、それらを予めコピーすること。

バックアップ イメージファイル
コンピュータシステムのバックアップ用にハードディスクの全ての内容が含まれているファイル。戻したい時点へコンピュータを復元するのに使用される。

分割イメージセット
管理を容易にしたり、ストレージに保存したりしやすいように、バックアップイメージを複数の小さなファイルに分割したイメージセット。複数の小さなファイルに分割する事により、バックアップイメージを CD や DVD などのリムーバブルメディアに保存できる。

ベア メタル リカバリ
重大な問題が発生した後のコンピュータの完全な復元のこと。ベアメタルリカバリは、完全なバックアップイメージで、オペレーティングシステム、ファイルシステム、パーティション、ボリュームのデータの復元全てを含む。

ベーシックディスク
MS-DOS 及びすべての Windows ベースのオペレーティングシステムでアクセス可能な物理的なディスク。基本ディスクには、4つのプライマリパーティション、もしくは、3つのプライマリパーティションと複数の論理ドライブを持つ拡張パーティションを持つ事ができる。

ベース イメージファイル
完全イメージファイルとも言い、ディスクドライブ上で使用されているすべてのセクタのコピーを含むバックアップファイル。ベースイメージファイルはオペレーティングシステムやアプリケーション、またデータなどコンピュータの全ての情報を含む。

保護されてないボリューム
ShadowProtectにより保護されてないボリューム。

保護ボリューム

保護ボリュームは、ユーザによってユーザインターフェース上で選択され、ShadowProtect によって保護されているボリューム。

ホットバックアップ
コンピュータ、あるいはサーバ上のシステムオペレーションを中断せずに、リアルタイムで取られたバックアップイメージ。

ホットリストア
コンピュータ、あるいはサーバ上のシステムオペレーションを中断せずに、バックアップイメージを復元すること。

注 :システムボリュームの復元はホットリストアできません。

ボリューム
ハードディスク上の記憶領域。ボリュームは、FAT や NTFS などのファイルシステムでフォーマットされる。通常はドライブレターが割り振られている。ひとつのディスクは、複数のボリュームに分割できる。また、ひとつのボリュームが複数のディスクにまたがることもできる。

マウントポイント
他のボリュームを「マウント」する（利用できる様に設定する）ために、アプリケーションが利用するボリューム上のディレクトリ。マウントポイントは、ドライブレター数の制限を受けず、ファイルやフォルダをより論理的に構成できる。

マウントされたボリューム
ネットワーク上のどこかに物理的に保存されているバックアップイメージを参照したり、利用したりする機能。。バックアップイメージは、マウントされるときにボリュームとして扱われ、ローカルなコンピュータシステムの一部であるかのように扱われる。マウントされたボリュームは、読み書きが可能なので、ユーザは既存のイメージファイルを更新したり、ウイルスや他のマルウェアをスキャンするなどしてイメージファイルを修復する事ができる。

ユーザインターフェース （UI）
ユーザがインタラクトするコンピュータシステムの部分。（ディスプレイ、キーボード、マウス等。）また、ユーザのインプットにより受け入れたり、返答したりするソフトウェアの部分。

リアルタイム
リアルタイムとは、ユーザが違和感なく「即座」と感じられたり、バックアップの様な外部プロセスが後れを取らずに実行可能なコンピュータのレスポンスレベル。

リストア

以前保存したバックアップイメージファイルからコンピュータデータを復旧する操作。

リモートコンピュータ
ネットワーク上のどこかに物理的に設置され、ローカルコンピュータからアクセス可能なコンピュータ。

連続増分
ShadowProtect のスケジュール形式の一つ。このスケジュールでは、一つのベースイメージと新規に完全バックアップを取得せずにその時点の増分バックアップを取得する。

ロック ボリューム
選択したドライブの排他アクセスを得る為のソフトウェアによる要求。ボリュームをロックする事により、ファイルシステムの変更もしくはイメージファイル書き込み中にファイルを開く等、他のソフトウェアプログラムからのアクセスを制限する。

.spf
ShadowProtect の完全、もしくはベースイメージファイルの拡張子。

.spi
ShadowProtect の増分、もしくは差分イメージファイルの拡張子。

.sp （番号）
ShadowProtect の分割イメージファイルの拡張子。.sp に続く番号は、分割されたイメージファイルのグループ内で番号付けされる。

c2011 StorageCraft Technology Corporation

Chapter 11: ソフトウェア使用許諾契約

SHADOWPROTECT Rソフトウェア エンドユーザ使用許諾契約書

ShadowProtect RServer、ShadowProtect RSmall Business Server、ShadowProtect RDesktop、ShadowProtect R ImageManager™、ShadowProtect RImageManager Enterprise™(「ShadowProtect 製品」)に関する本ライセンスへの合意、又は本ソフトウェアご使用の前に本ライセンス契約の諸条件をよくお読み下さい。StorageCraft Technology Corporation (「StorageCraft」は、本ソフトウェアを利用する個人、企業、又は法人組織(以下「ライセンシー」に対し、本契約のすべての条項を受諾することを条件に、本ソフトウェアをライセンスします。本契約はライセンシー及びStorageCraftとの間における法的強制力のある契約です。ShadowProtect 製品の含まれるパッケージを開けて、封印シールを破り、「合意します」ボタンをクリックしたり、或いは本ソフトウェアをインストール、ロード、利用、又は保する等その他の行為によって同意を表明することで、ライセンシーは本ライセンスを受諾し、本契約のすべての諸条件に同意したものとみなされます。諸条件に同意しない場合には、パッケージを開けたり、封印シールを破ったり、「合意します」ボタンをクリックしたりしないで、本ソフトウェアを利用せずに、StorageCraftのカスタマー サービス係りへ問い合わせ、お支払いのライセンス料の返金の受け取り方、並びに本ソフトウェア及びドキュメンテーションの返却方法に関する情報を入手して下さい。ライセンシーがいかなる試用、評価、或いは購入取引のもと、本ソフトウェアをイストール又はその他の方法で利用した場合には、ライセンシーによる行為を本契約の受諾とみなし、ライセンシーはその諸条件に拘束されます。ライセンシーはStorageCraftのウェブサイト WWW.STORAGECRAFT.COM/ LEGAL/ にアクセスし、本契約の複製をライセンシーのファイル用にダウンロード及び印刷することが出来ます。

第1章　定義

.1. 「**アクティベーション**」(「アクティベート」、「アクティベート済」等も含むとは、本ソフトウェアのシリアル番号とマシンIDをインターネットを通して自動的に、またはEメール、ウェブフォーム、電話にてStorageCraftに提供することで、ライセンシーが提供したシリアル番号とマシンIDに固したアクティベーションキーをStorageCraft から受け取り、このアクティベーションキーによって本ソフトウェアをトライアル版から製品版に換することを意味します。「アクティブ」ライセンス、または「アクティブ」シートとは、このアクティベーション・プロセスが完了し、かつアクティベーションが解除されていない状態の本ソフトウェアライセンスを指します。

.2. 「**アーカイブ用の使用**」とは、ライセンスされたオリジナルコピーが正常に機能しなくなった場合においてのみ、ライセンシーによる使用を目的とした、ライセンシーによる本ソフトウェアの唯一のコピー作成及び機密保存をいいます。アーカイブ用コピーの使用には、ライセンスを受けたオリジナルコピーとアーカイブ用コピーの同時使用を含まないものとし、当該同時使用は本契約において禁止します。

.3. 「**アクティベーション解除**」(「アクティベーションを解除する」、「アクティベーション解除済」等も含むとは、アクティベーションとは反対のプロセスを意味し、これによりバックアップイメージを作成することはできなくなります。

.4. 「**デスクトップ・オペレーティングシステム**」とは、デスクトップコンピューターでの使用を意図して広範囲にリリースされた、すべてのマイクロソフト製オペレーティングシステムをいい、Windows 2000 プロフェショナル、Windows XP ホームエディション、及びWindows XP プロフェショナル、Windows Vista、Windows 7を含み、これに限定されません。

.5. 「**ドキュメンテーション**」とは、本ソフトウェアの使用に関するオンラインヘルプファイル、又は印刷された取扱説明書のすべてをいいます。

.6. 「**発効日**」とは、ライセンシーが該当するライセンス料を支払い、本契約を承諾した日を意味します。

.7. 「**ImageManager**」とは、あらかじめ予約設定されたShadowProtectイメージファイルのベリフィケーション、保持、統合を実行できるプログラム、ShadowProtect ImageManager を意味します。ImageManagerにはImageManager サービスとImageManager クライアントは含まれますが、 ImageManager Enterprise、ImageManager Enterprise for MSPとその追加機能は含まれません。ImageManagerはShadowProtect Server、ShadowProtect SBS、ShadowProtect Desktopを購入した場合、またShadowProtect for MSPを契約した場合、製品に含まれています。

.8. 「**ImageManager Enterprise**」とは、あらかじめ予約設定されたShadowProtectイメージファイルのベリフィケーション、保持、統合、監視、また管理を実行できるプログラム、ShadowProtect ImageManager Enterprise を意味します。ImageManager Enterprise には、ジョブ毎にライセンスされるイメージファイルのレプリケーション機能や、HeadStart Restor R機能が含まれています。1ジョブで、ImageManager Enterprise は(a) レプリケーション、HeadStart Restoreそれぞれ１つずつをShadowProtect Server、ShadowProtect Desktop、ShadowProtect SBSのインストールされた出力先のコンピュータ(物理、または仮想問わずに作成することができます。追加でジョブを作成したい場合は、別途購入が必要になります。

.9. 「**ImageManager Enterprise for MSP**」とは、あらかじめ予約設定されたShadowProtectイメージファイルのベリフィケーション、保持、統合、監視、また管理を実行できるサブスクリプション・ベースのプログラム、ShadowProtect ImageManager Enterprise for MSP を意味します。ImageManager Enterprise には、ジョブ毎にライセンスされるイメージファイルのレプリケーション機能や、HeadStart Restor R機能が含まれています。1ジョブで、ImageManager Enterprise for MSP は(a)

レプリケーション、HeadStart Restoreそれぞれ１つずつをShadowProtect Server、ShadowProtect Desktop、ShadowProtect SBS、ShadowProtect for MSPのインストールされた出力先のコンピュータ（物理、または仮想問わずに作成することができます。追加でジョブを作成したい場合は、別途購入が必要になります。

.10. 「**知的財産権**」とは、特許権、著作権、商標及び企業秘密、並びに特許法、著作権法、著作者人格権法、企業秘密法、商標法、不当競争法による、または特定の管轄区域におけるその時々において存在するあらゆる排他権、或いはその他類似する権利等の知的財産及び本ソフトウェアにかかわるStorageCraftの一切の所有権を意味します。

.11. **「購読料」**とは、ライセンシーが、本ソフトウェアを購読期間中に使用するためのライセンスと引き換えに、StorageCraft、またはその再販売業者、ディストリビューター、または正式代表者へ支払われる代金を意味します。この定義にはMSPソフトウェアを使用する際に支払うサブスクリプション料金も含まれます。

.12. 「**保守**」とは、購読料の支払いと引き換えに、本契約により使用がライセンスされている特定のShadowProtect製品（「本製品」に関する効期限付きの権利を意味します。これには、効保守期間中にStorageCraftがリリースする本製品のすべての更新やアップグレード、また本契約書内に記してあるサポートに加えて、StorageCraft営業時間中の電話サポートが含まれます。保守はシリアル番号毎、またはデスクトップ/サーバー毎に提供され、他のShadowProtect 製品とそのアップデートや、別途にライセンスされているアッドオンモジュール、また他のShadowProtect 製品に含まれる機能は本権利から除外されます。ShadowProtect 製品のアップデートや、アップグレード、また追加機能はStorageCraftの独占的な判断によってリリース、追加、作成されます。StorageCraft はこの情報提供を保証したり、約束することはありません。

.13. **「MSPソフトウェア」**とは、永続的に使用可能なライセンス形式ではなく、サブスクリプションとして使用できる、ShadowProtect for MSPとShadowProtect ImageManager Enterprise for MSPを意味します。

.14. 「**オブジェクトコード**」とは、実行、dllまたはライブラリファイル形式における、コンパイラーが本ソフトウェアのソースコードを処理した後の出力を意味します。

.15. **「オリジナルコピー」**とは、本契約に従ってライセンシーに提供された本ソフトウェアの唯一のコピーをいいます。

.16. 「**物理的なシステム**」とは、インストール済みのオペレーティングシステムによってサポートされている、コンピュータ・ハードウェアシステムをいいます。

.17. **「製品サポート」**とは、購読料の支払いと引き換えに、本契約により使用がライセンスされている特定のShadowProtect製品（「本製品」に関する効期限付きの「スタンダードサポート」または「プレミアムサポート」を意味します。「スタンダードサポート」とは、StorageCraft業務時間内において、Emergencyレベルの問題への電話でのサポートや、StorageCraftのオンラインサポート・システム、StorageCraftユーザーフォーラム、またFAQを含む質疑応答形式のStorageCraftナレッジベースを意味します。本ソフトウェアを購入すると、更新可能な1年間のスタンダードサポートが本ソフトウェアの金額に含まれています。MSPソフトウェアのサブスクリプションを購入した場合は、サブスクリプションの効期間内において、スタンダードサポートをご利用頂けます。「償サポート」とは、「プレミアムサポート」および「インシデントサポート」を意味します。プレミアムサポートは、本ソフトウェアの購入者が追加購入できる、更新可能な1年間のテクニカルサポートです。これは、Emergencyレベルの問題への年中無休の電話によるサポートや、通常の電話サポート時の優先度アップ、StorageCraftのオンラインサポート・システムの使用、StorageCraftユーザーフォーラムへのアクセス、またFAQを含む質疑応答形式のStorageCraftナレッジベースのご利用が可能です。インシデントサポートは、上記のプレミアムサポートのご利用が可能ですが、１件のみのご利用になります。インシデントサポートは、1件ずつ、またはパックでのご購入が可能です。

.18. 「**サーバー・オペレーティングシステム**」とは、サーバー・コンピューターでの使用を意図して広範囲にリリースされた、すべてのマイクロソフト製オペレーティングシステムをいい、Windows 2003 及び Windowsサーバー2008 を含み、またこれに限定されません。

.19. **「ShadowProtect for MSP**」とは、コンピューターにインストールして実行する、サブスクリプションベースのソフトウェア製品、ShadowProtect for Managed Service Providersを意味します。これは別売りのStorageCraft Recovery Environmentと一緒にご使用頂けます。 ShadowProtect for MSPをインストールすると、本ソフトウェアは、インストールされているコンピュータのオペレーティングシステムの情報をStorageCraftに報告します。この情報を基にソフトウェアは、ShadowProtect Desktop, ShadowProtect SBS, ShadowProtect Serverのサブスクリプション・ベース版のShadowProtect Desktop for MSP, ShadowProtect SBS for MSP, またはShadowProtect Server for MSPのシートとしてアクティベートされます。別途にライセンスされる料金制の他の製品やアッドオンモジュールは含まれません。ShadowProtect for MSPには、VirtualBoot™、ImageManager、またShadowProtect KeyFileMaker™ とその他のKeyFile ツール (「**KeyFileMaker**」)の StorageCraft アプリケーションが含まれます。

.20. **「ShadowProtect Desktop**」とは、コンピューターにインストールして実行するプログラムとStorageCraft Recovery Environmentを含む、ShadowProtect Desktop を意味します。別途にライセンスされる、料金制の他の製品やアッドオンモジュール、またImageManager Enterprise等は含まれません。 ShadowProtect Desktop は物理システムか仮想システムのどちらかでご利用いただけますが、１つのライセンスで両方のシステム上でご利用いただくことはできません。 ShadowProtect Desktop には、VirtualBoot™、ImageManager、またShadowProtect KeyFileMaker™ とその他のKeyFile ツール (「**KeyFileMaker**」)の StorageCraft アプリケーションが含まれます。

.21. **「ShadowProtect SBS**」とは、コンピューターにインストールして実行するプログラムと、StorageCraft Recovery Environmentを含む、ShadowProtect Small Business Server を意味します。ShadowProtect SBSには、別途にライセンスされる、料金制の他の製品やアッドオンモジュール、またImageManager Enterprise等は含まれません。ShadowProtect SBSは物理システムか仮想システムのどちらかでご利用いただけますが、１つのライセンスで両方のシステム上でご利用いただくことはできません。 ShadowProtect SBS には、VirtualBoot™、ImageManager、またKeyFileMakerのStorageCraft アプリケーションが含まれます。

.22. **「ShadowProtect Server」**とは、コンピューターにインストールして実行するプログラムと、

StorageCraft Recovery Environmentを含む、ShadowProtect Server を意味します。ShadowProtect Serverには、別途にライセンスされる、料金制の他の製品やアッドオンモジュール、またImageManager Enterprise等は含まれません。ShadowProtect Serverは物理システムか仮想システムのどちらかでご利用いただけますが、１つのライセンスで両方のシステム上でご利用いただくことはできません。 ShadowProtect Server には、VirtualBoot™、ImageManager、またKeyFileMakerの StorageCraft アプリケーションが含まれます。

.23. 「Small Business Server**オペレーティングシステム**」とは、Microsoft Small Business Server 2000, Microsoft Small Business Server 2003, Microsoft Small Business Server 2008を意味します。

.24. 「**ShadowProtect Virtual Desktop**」とは、コンピューターにインストールして実行するプログラムと、StorageCraft Recovery Environmentを含む、ShadowProtect Virtual Desktopを意味します。ShadowProtect Virtual Desktopは、別途にライセンスされる、料金制の他の製品やアッドオンモジュール、またImageManager Enterprise等は含まれません。ShadowProtect Virtual Desktopは、デスクトップ仮想マシンでの使用のみ、ライセンスされます。ShadowProtect Virtual Desktopのボリュームライセンス証明書が発行されている場合、 本ソフトウェアの全てのコピーは、ライセンシーのコンピューターでのみの使用が許可されます。複数のエンドユーザーが本ソフトウェアのシートを使用した場合は、ボリュームライセンス証明書で許可されている全てのソフトウェア・シートは無効になります。 ShadowProtect Virtual Desktopには、VirtualBoot™、ImageManager、またKeyFileMakerの StorageCraft アプリケーションが含まれます。

.25. 「**ShadowProtect Virtual Server**」とは、コンピューターにインストールして実行するプログラムと、StorageCraft Recovery Environmentを含む、ShadowProtect Virtual Serverを意味します。ShadowProtect Virtual Serverには、別途にライセンスされる、料金制の他の製品やアッドオンモジュール、またImageManager Enterprise等は含まれません。ShadowProtect Virtual Serverは、仮想マシンでの使用のみ、ライセンスされます。ShadowProtect Virtual Serverのボリュームライセンス証明書が発行されている場合、 本ソフトウェアの全てのコピーは、ライセンシーのコンピューターでのみの使用が許可されます。複数のエンドユーザーが本ソフトウェアのシートを使用した場合は、ボリュームライセンス証明書で許可されている全てのソフトウェア・シートは無効になります。 ShadowProtect Virtual Serverには、VirtualBoot™、ImageManager、またKeyFileMakerの StorageCraft アプリケーションが含まれます。

.26. 「**本ソフトウェア**」とは、StorageCraft、または認可されている再販業者への購読料の支払いと引き換えに、本契約により使用がライセンスされている特定のShadowProtect製品（「本製品」と、評価版製品、試用版製品、またはNFR ライセンスが許可されているShadowProtect製品を意味します。

.27. 「**StorageCraft Recovery Environment**」とは、本ソフトウェアのブート可能なCDコンポーネントまたは、本ソフトウェアのブート可能なCDの作成に必要なISOファイル(また、そのファイルに含まれる全ての機能) を意味します。StorageCraft Recovery Environment には、MicrosoftからStorageCraftがライセンスされた本ソフトウェアバージョンの実行に必要な起動可能なオペレーティングシステムを提供するWinPEが含まれています。

.28. **「サポートイシュー」**とは、本ソフトウェアに関する、技術的な質問や問題を意味します。サポートイシューは、問題の深刻度によって、StorageCraftの判断でLowレベル、Mediumレベル、Highレベル、Emergency レベルに区分されます。「Emergencyレベル」とは、本ソフトウェアの正確なインストレーションや使用にも関わらず発生し、また(i) ミッション・クリティカルな業務サーバーが機能せず、また本ソフトウェアによってリストアできない場合、(ii) ミッション・クリティカルな業務サーバーが本ソフトウェアを使用することによって使用不可能になる場合のいずれかのミッション・クリティカルな業務問題を引き起こすサポートイシューを意味します。「Highレベル」とは、本ソフトウェアの正確なインストレーションや使用にも関わらず発生し、長期間での生産性には影響が出る可能性はあるが、制限付きの操作で継続できる場合を意味します。「Mediumレベル」とは、本ソフトウェアの正確なインストレーションや使用にも関わらず発生するが、ライセンシーの業務遂行には、限定的な影響がある場合を意味します。「Lowレベル」とは、トレーニングや強化、アクティベーション、ライセンス形態、詳細情報、一般的な質問、ベストプラクティス、またクリティカルな業務環境にあまり影響のないエラー等を含む全ての質問や問題を意味します。

.29. 「**アップデート**」とは、既存のユーザーに対するソフトウェアパッチ、不具合やバグの修正の提供を意味します。ただし、StorageCraftは、アップデートの作成に関して、保証したり約束したりすることはありません。

.30. 「**アップグレード**」とは、一般ユーザーへの本ソフトウェアの新バージョンのリリースを意味します。これは、本ソフトウェアの前バージョンを置き換えるものであり、StorageCraftの制定したポリシーと料金表に従って提供されます。ボリュームライセンス証明書によって本ソフトウェアのアップグレード入手する場合、ボリュームライセンス証明書によって許可されているシート数と同数分のみ入手可能です。ただし、StorageCraftはアップグレードの作成/リリースに関して、保証したり約束したりすることはありません。

.31. 「**使用**」とは、本契約の条項により認められている方法で、本ソフトウェアをそのオブジェクトコード形式において実行、起動、表示することを意味します。

.32. 「**仮想マシン**」とは、ソフトウェアを用いて機械装置及びオペレーティングシステムが模倣され、エミュレータによって作られたすべての環境をいいます。VMウェア R及び バーチャルPC は、仮想マシンを提供するソフトウェアの例です。「デスクトップ仮想マシン」とは、仮想マシンが、デスクトップオペレーティングシステムを実行している状態（例：VMウェアがWindows 7を実行を意味します。「サーバー仮想マシン」とは、仮想マシンが、サーバーオペレーティングシステムを実行している状態（例：VMウェアがWindows Server 8オペレーティングシステムを実行を意味します。「スモールビジネスサーバー仮想マシン」とは、仮想マシンが、スモールビジネスサーバー・オペレーティングシステムを実行している状態（例：VMウェアがWindows Small Business Server 2008オペレーティングシステムを実行を意味します。

.33. 「**ボリュームライセンス証明書**」とは、ライセンシーが証明書に許可された台数分、本ソフトウェアの複数コピーをインストール及び使用することを許可した、StorageCraft発行のライセンス証明書をいいます。このすべてのコピーはライセンシーが、ライセンシーのコンピューター上でインストール、および使用する場合に限ります。複数のエンドユーザーが本ソフトウェアのシー

トを使用した場合は、ボリュームライセンス証明書で許可されている全てのソフトウェア・シートは無効になります。

第2章　所権

これはライセンス取引であり売買取引ではありません。本ソフトウェアおよび本ドキュメンテーションはStorageCraft Technology Corporation、または同社のStorageCraftの所する製品であり、アメリカ合衆国の著作権法及び国際条約の規定により保護されています。本契約は、米国、または国際著作権法等によるStorageCraftの権利放棄を構成するものではありません。本ソフトウェア及び本ドキュメンテーション、並びにその全てのコピー、更、翻訳、内容、機能及び統合された部分（merged portionsに対する所権（関係する著作権、特許権、企業秘密権、商標等の知的財産権を含めては常にStorageCraftに帰属します。ライセンシーの本ソフトウェアに対する使用権は、専ら本契約に明記された権利に限ります。本契約においてライセンシーへ明示的に付与されない権利は、StorageCraftが全部留保します。本契約は、StorageCraftがライセンシーへ今後提供しうる本ソフトウェアのアップデート、アップグレード、リリース、改訂、または改善を規制します。本契約はライセンシーに対して、（a本ソフトウェアのソースコード、またはオブジェクト・コードに対する、またはStorageCraftの知的財産権に対する所権、権原、権利、担保権等、（b本ソフトウェア、本ソフトウェアのいかなる部分のコピー、または本ドキュメンテーションにかかわる知的財産権、（c本ソフトウェアを更する権利、または権限、（d本ソフトウェアを使用して、本ソフトウェアの派生物、または派生著作物（derivatives or derivative worksを開発する権利、（e本ソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆コンパイル、または再コンパイル、或いはその他の方法により本ソフトウェアにかかわるソースコード、または企業秘密を発見しようとする権利、（f本契約において明示的に認められた場合を除き、本ソフトウェアをコピーする権利、（gStorageCraftの書面による事前同意なくして、本ソフトウェアのいかなる部分、または本ソフトウェアにかかわる権利をコピー、サブライセンス、売却、貸与、賃貸借、贈与、移転、譲渡、または別の方法により処分する権利（なお、StorageCraftの書面による事前同意無しでなされた、かかるような処分は無効となる、及び/または（h特許権、著作権、企業秘密、商標、または他のStorageCraftの所権にかかわる通知を除去、覆い隠し、または更する権利を付与するものではありません。

第3章　ライセンスの許諾

該当する全ての購読料がStorageCraftに対してタイムリーに支払われることを条件に、ライセンシーに対して、(a)本ソフトウェアと本ドキュメンテーションを「現状のまま」、つまりStorageCraft から提供された状態のまま使用し、（b本契約の条項と、下記3.1条に明記されている、特定のShadowProtect 製品に適用される特定の条件と制限に厳密に従って本ソフトウェアを使用し、(c)　専らアーカイブ用の使用の為に本ソフトウェアをコピーする（但し、全ての所権、商標記号、著作権記号、マーキング等の表示がアーカイブ用のコピーの上に複写され、かかるアーカイブ用のコピーが本ソフトウェアのオリジナルコピーが操作不能となり、または正常に機能しなくなった場合に限り使用されることが条件、及び（dライセンシーが複数のコンピューターに本ソフトウェアをインストールし、使用することを許可するボリュームライセンス証明を購入した場合を除き、本ソフトウェアを1台のコンピューター上のみで使用するための世界的に、永久の、撤回可能、非独占的、譲渡不能、サブライセンス不能、料金制のオブジェクトコード形式のライセンスが与えられます。**ライセンシーは、本ソフトウェアの全ての機能性が、適用される購読期間の終了によりタイムアウトし、動作しなくなることを理解し、それに同意します。本ソフトウェアがタイムアウトし、動作しくなった場合、StorageCraftは本ソフトウェアに関するサービス、またはサポートを提供する責任を負いません。**

3.1. 本ソフトウェアの特定のバージョンに関する追加事項、条件、制限

3.1.1. **デスクトップ ライセンス** – 本ソフトウェアのデスクトップライセンスでは、デスクトップオペレーティングシステム上のみでの本ソフトウェアの使用が許可されます。このバージョンの本ソフトウェア製品は、パッケージ製品か、StorageCraft かその再販業者のウェブサイトからダウンロードして購入することができます。このバージョンには、ImageManagerの使用ライセンスも含まれます。

3.1.2. **デスクトップ仮想マシンライセンス** – 本ソフトウェアのデスクトップ仮想マシンライセンスでは、デスクトップオペレーティングシステムを実行している仮想マシン上のみでの本ソフトウェアの使用が許可されます。このライセンスでは、ライセンシーは本ソフトウェアを物理システム上にインストールして使用することは、許可されません。デスクトップ仮想マシン上のみでの本ソフトウェアの利用に限定されることを除いて、このライセンスにもデスクトップライセンスで許可される権利と、同ライセンスで課される制限の全てが適用されます。このバージョンの本ソフトウェア製品は、パッケージ製品か、StorageCraft かその再販業者のウェブサイトからダウンロードして購入することができます。このバージョンには、ImageManagerの使用ライセンスも含まれます。

3.1.3. **評価版ライセンス** – 評価版ライセンスとは、ライセンシーが該当するShadoProtect製品とStorageCraft Recovery Environmentの全機能の使用を許可するライセンスです。このライセンスは、ソフトウェアで許可された一定期間内にライセンシーが本製品を評価する目的で提供されます。本ソフトウェアは、許可された評価期間が終了する前に、その旨をライセンシーに事前に知らせます。本ライセンスを、複製したり、配布したり、再販したりすることはできません。本ライセンスは、パッケージ製品か、またはStorageCraftやその再販業者のウェブサイトからダウンロードして入手することができます。これには、ImageManagerの使用ライセンスも含まれます。

3.1.4. **ImageManager Enterprise ライセンス**– ImageManager Enterprise ライセンスは、ジョブ毎にImageManager Enterpriseの機能の使用を許可するライセンスです。1つのジョブでImageManager Enterpriseは、(a) ShadowProtect Server、 ShadowProtect Desktop、またはShadowProtect SBSのインストールされている出力先コンピュータ（物理、仮想は問わないにレプリケーションを１つ作成する、 (b) ShadowProtect Server、 ShadowProtect Desktop、またはShadowProtect SBSのインストールされている出力先コンピュータ（物理、仮想は問わないにHeadStart Restoreを１つ作成することができます。それ以上必要な場合は、追加でライセンスを購入できます。

3.1.5. **Not for Resale (“NFR”) ソフトウェアライセンス**– NFR ソフトウェアライセンスは、ライセンシーが製品プロモーションの目的で無料、またはディスカウント料金でShadowProtect製品の使用を許可するライセンスです。本ライセンスを複製したり、配布したり、再販したりすることはできません。本ライセンスは、コンピュータ上で提供される場合、パッケージやメディアで提供される場合に関わらず、「NFR」か「Not For Resale」の記があります。本ライセンスは、パッケージ製品か、またはStorageCraftやその再販業者のウェブサイトからダウンロ

ードして入手することができます。これには、ImageManagerの使用ライセンスも含まれますが、保守サービスは含まれません。

3.1.6. サーバーライセンス –本ソフトウェアのサーバーライセンスでは、サーバーオペレーティングシステム上のみでの本ソフトウェアの使用が許可されます。このバージョンの本ソフトウェア製品は、パッケージ製品か、StorageCraft かその再販業者のウェブサイトからダウンロードして購入することができます。このバージョンには、ImageManagerの使用ライセンスも含まれます。

3.1.7. サーバー仮想マシンライセンス – 本ソフトウェアのサーバー仮想マシンライセンスでは、サーバーオペレーティングシステムを実行している仮想マシン上のみでの本ソフトウェアの使用が許可されます。このライセンスでは、ライセンシーは本ソフトウェアを物理システム上にインストールして使用することは、許可されません。サーバー仮想マシン上のみでの本ソフトウェアの利用に限定されることを除いて、このライセンスにもサーバーライセンスで許可される権利と、同ライセンスで課される制限の全てが適用されます。このバージョンの本ソフトウェア製品は、パッケージ製品か、StorageCraft かその再販業者のウェブサイトからダウンロードして購入することができます。このバージョンには、ImageManagerの使用ライセンスも含まれます。

3.1.8. スモールビジネスサーバー ライセンス – 本ソフトウェアのスモールビジネスサーバーライセンスでは、スモールビジネスサーバーオペレーティングシステム上のみでの本ソフトウェアの使用が許可されます。このバージョンの本ソフトウェア製品は、パッケージ製品か、StorageCraft かその再販業者のウェブサイトからダウンロードして購入することができます。このバージョンには、ImageManagerの使用ライセンスも含まれます。

3.1.9. スモールビジネスサーバー仮想マシンライセンス–本ソフトウェアのスモールビジネスサーバー仮想マシンライセンスでは、スモールビジネスサーバーオペレーティングシステムを実行している仮想マシン上のみでの本ソフトウェアの使用が許可されます。このライセンスでは、ライセンシーは本ソフトウェアを物理システム上にインストールして使用することは、許可されません。スモールビジネスサーバー仮想マシン上のみでの本ソフトウェアの利用に限定されることを除いて、このライセンスにもスモールビジネスサーバーライセンスで許可される権利と、同ライセンスで課される制限の全てが適用されます。このバージョンの本ソフトウェア製品は、パッケージ製品か、StorageCraft かその再販業者のウェブサイトからダウンロードして購入することができます。このバージョンには、ImageManagerの使用ライセンスも含まれます

3.1.10. 試用版ライセンス– 試用版ライセンスとは、ライセンシーが該当するShadoProtect製品の全機能の使用を許可するライセンスです。このライセンスには、StorageCraft Recovery Environmentの使用は含まれません。本ライセンスは、パッケージ製品か、またはStorageCraftやStorageCraftに許可されたダウンロードプロバイダーのウェブサイトからダウンロードして入手することができます。本ライセンスには、ImageManagerの使用ライセンスも含まれますが、保守サービスは含まれません。

第4章 ライセンスの制限

ライセンシーは、本ソフトウェア、または本ドキュメンテーションについて、StorageCraftから書面で事前承諾が無い限り、以下のことを直接、または親会社、子会社、関連会社、代理人、第者を通じて行わないものとします。

4.1. 本契約の条項に違反して、本ソフトウェア、または本ドキュメンテーションを使用する
4.2. 本契約により明確に認められた場合を除き、本ソフトウェア、または本ドキュメンテーションをコピーする
4.3. ボリュームライセンス証明で許可されている場合を除いて、本ソフトウェアのコピーの同時使用を許可する
4.4. 本ソフトウェア、または本ドキュメンテーションのいかなる部分を売却、賃貸、ライセンス、サブライセンスなどをする
4.5. StorageCraftの文書による事前同意なくして、ライセンシー以外の者に対して、本ソフトウェア、または本ドキュメンテーションを提供、貸与、開示、公開、使用させる、または入手できるようにする
4.6. 本ソフトウェア、またはそのコピーに対する権利、または占を賃借、賃貸し、担保として差し入れ、又はその別の方法で移転する
4.7. 本ソフトウェアをサービス・ビューロー、またはタイムシェアリングにおいて使用する
4.8. StorageCraft Recovery Environmentが提供されたShadowProtect製品のライセンスで許可されている使用以外でStorageCraft Recovery Environment を使用する
4.9. 本ソフトウェア、または本ドキュメンテーションのコピーに付いている、所権にかかわる通知、ラベル、または表示を除去、または更する
4.10. 本ソフトウェア、または本ドキュメンテーションをアメリカ政府により禁じられている国などへ（直接または間接的に出荷、または送信する
4.11. 本ソフトウェアのソースコードをリバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブル、更、翻訳する、または別の方法によりそれを発見しようとすること、又は本ソフトウェアから派生著作物を生成する、または本ソフトウェアを操作する
4.12. 仮想マシンライセンスを物理システムに使用す
4.13. ライセンシーに提供されたKeyFileMakerやVirtualBootソフトウェアライセンス以外で作成されたイメージファイルにKeyFileMakerやVirtualBootを使用する
4.14. (a) ライセンシーが本ソフトウェアのコピーを所持しない、(b) 移転、または譲渡を受ける者が、本契約における全条件に書面で事前に同意する、 (c) 移転、または譲渡におけるStorageCraftの承諾無しに、本契約に基づいてライセンシーに許可された権利を移転、または譲渡する

第5章 購読料

5.1. 購読料

評価版、試用版、NFR版ライセンスを除き、ライセンシーは、StorageCraftか、StorageCraftの正式再販売業者が設定した購読料を支払うことに合意します。

5.2. 保守サービス、サポート料
保守サービスや本契約で認められているサポート範囲を超える追加サポートは、別途StorageCraft と保守サービスやサポート契約を結ぶことで利用できます。

第6章 サポート、アップデート、アップグレード

6.1. ライセンシーは、アップデートを受け取る権利と、購読料との引き換えにStorageCraftサポートプログラムに参加する権利があります。StorageCraftサポートプログラムとは、StorageCraftのオンラインサポートシステムや、 StorageCraft-moderated ユーザーフォーラム、また、FAQを含むStorageCraftナレッジベースのことを言います。

6.2. ボリュームライセンス証明書で本ライセンスを購入した場合、購入数と同数のアップグレードのみを提供します。アップグレードは、StorageCraftのポリシーに基づいて提供されます。本ライセンスは、すでに購入し、StorageCraftにより許可されたライセンスに加えてライセンシーに別途ライセンスするものではありません。

第7章 解除

本契約は、本章の定めに従って解除されるまで効力を持ち続けるものとします。両当事者は本契約をいつでも都合により解除することができます。StorageCraft の都合により解除する場合は、ライセンシーに購読料を返還するものとします。第3、4、5及び6章の規定に対する違反があった場合、StorageCraftは、ライセンシーへ通知することにより、本契約を即時解除できます。また、StorageCraftは、ライセンシーが本契約の他の規定に違反した場合で、StorageCraftからかかる違反に対する通知書を受け取ってから20日以内にかかる違反を是正しなかった場合に、書面による20日の予告をライセンシーへ出すことにより、本契約を解除できます。本契約が解除された場合、ライセンシーは本ソフトウェア及び本ドキュメンテーションの使用を中止し、本ソフトウェア及び本ドキュメンテーションの全てのコピーを破棄しなければなりません。

第8章 制限付き保証、排他的救済

StorageCraftは、ライセンシーがStorageCraft、またはその再販売業者、ディストリビューター、または正式代表者から本ソフトウェアをはじめて購入した日から60日間に亘り、通常の使用条件のもとで本ソフトウェアがっているメディアには材料や出来栄えの欠陥がないことを保証します。この保証により、ライセンシーに対して、特定の権利が与えられます。また、ライセンシーは州によって、他の権利もする場合があります。かかる制限付き保証に対する違反があった場合、StorageCraft及びその代理人、従業員、代表者、役員、取締役、下請業者、ディーラー及びディストリビューターに対する、ライセンシーの唯一かつ排他的救済方法としては、StorageCraftの選択で、（a購読期間の未使用部分に比例した、ライセンシーにより支払済み購読料の返金、または（bライセンシーが不具合の存在について、保証期間内にStorageCraftへ通知することを条件として、本ソフトウェアがっている、欠陥のあるメディアの交換のどちらかに限る。ライセンシーは自らの費用負担で、また60日の保証期間内において、欠陥のあるメディアと共にライセンス料を支払った証拠をStorageCraft、またはそのディーラー、ディストリビューター、または正式代表者へ返却しなければなりません。かかる欠陥が、更、乱用、損傷、または誤用により生じた場合は、この制限付き保証が無効となります。置き換えられたメディアの保証期間は、当初の保証期間の残期間、または30日間、どちらか長い方とします。

第9章 保証の否認

**StorageCraftは、本ソフトウェアがライセンシーの要件を満たし、無中断、またはエラーなしで動作することを保証しません。本契約において明記された場合を除き、本ソフトウェアはいわゆる「現状姿のままによる」、かつ、一切ライセンシーの責任で提供・ライセンスされます。本ソフトウェア、または本契約により、若しくは本契約に関連しては提供されるその他の製品・サービスについては、法律、法の作用等、明示、黙示的、または書面、口頭による保証、表明、または条件が一切ありません。適用される法律が許す最大限の範囲において、StorageCraft及びそのディーラー、ディストリビューター及び正式代表者は、明示的、黙示的、または法令によるものであれ、商品適格性、耐久性、特定目的への適合性、ウイルスの不存在、非侵害、回答の正確性・完成性、結果、職人らしい努力（workmanlike effort及び過失のない不存在に関する一切の保証、またはこれら条件（もしあれば）等を含め、あらゆる保証及び条件をまた明示的、または法令によるものであれ、商品適格性、耐久性、特定目的への適合性

可能性を知らされていた場合でも、また、その原因の如何を問わず、本ソフトウェアの使用に起因する賠償責任の法理（それが契約、厳格責任、または不法行為（過失等を含むによるものであれにより、いかなる損害に対しても、一切責任を負いません。管轄区域によっては、付随的、または派生的損害賠償の免責、または制限が認められない場合があるので、上記の制限、または免責がライセンシーへ適用されない場合があります。ライセンシーは、制定法、またはコモンローに起因する補償、または寄与にかかわる請求等を含めて、本章により限定された賠償責任を上回る一切の賠償責任から、StorageCraftを免責します。なお、特定の国（マレーシア、ニュージーランド、オーストラリアなどに居るエンドユーザーは、賠償責任を更、または免責する能力を制限する特の消費者保護法の対象となる場合があります。ライセンシーが、本ソフトウェアをビジネスのために取得した場合、適用する消費者保護法の適用を受けないことをここに確認します。StorageCraftが適用される法律により黙示的に定められた条件、または保証に違反し、なおかつ、本契約により、かかる違反を合法的に更、または免責することができない場合においては、法が認める範囲内において、StorageCraftのライセンシーに対する賠償責任は、StorageCraftの選択で、（a本ソフトウェアの交換、または修理、及び/ またはカスタマーサポートの再供給、または（b本ソフトウェアを交換、または修理するためのコスト、及び/ またはカスタマーサポートを再供給するためのコストに限定されます。

第11章　米国政府の権利に対する制限、制限付き権利に関する表示

StorageCraftの全ての製品及びドキュメンテーションは商業的な性質を持っています。本ソフトウェア及び本ドキュメンテーションは、48 C.F.R.第2.101項に定義された「商用品目（Commercial Items」に該当し、48 C.F.R.第252.227- 7014(a)(5)項及び48 C.F.R.第252.227- 7014(a)(1)項に定義され、48 C.F.R.第12.212項及び48 C.F.R.第227.7202項に用いられている「商用コンピューター・ソフトウェア（Commercial Computer Software」及び「商用コンピューター・ソフトウェア・ドキュメンテーション（Commercial Computer Software Documentation」から構成されています。なお、48 C.F.R.第12.212項、48 C.F.R.第252.227- 7015項、48 C.F.R.第227.7202ないし227.7202- 4項、48 C.F.R.第52.227- 14及びアメリカ連邦規制集の他の該当する箇所に則って、本ソフトウェア及び本ドキュメンテーションは本契約記の条項に従って、他の全てのエンドユーザーへ与えられる権利と同様な権利をもって米国政府のエンドユーザーへライセンスされます。

第12章　輸出法の遵守

本ソフトウェアは輸出管理規則（「EAR」により、米商務省の輸出管理規制の対象となっています（http:/ / www.accesss.gpo/ bis/ index.htmlを参照。米国の法律を厳守しなければなりません。ライセンシーは、適用されるべき輸入及び使用にかかわる制約を含め、EAR及び全ての適用されるべき国際、国、州、地方及び自治体の法律及び規制により定められている要件を満たすことに合意します。現時点では、アメリカの貿易制裁対象となっている国へのStorageCraftの製品の輸出・再輸出が禁じられています。ライセンシーは、EARに定められた国、米商務省のDenied Persons, Entities and Unverified Lists（禁輸対象者、組織及び未証明者リスト、米国務省のDebarred List（除外リスト、または米財務省のSpecially Designated Nationals（特別指定国リスト、Specially Designated Narcotics Traffickers（特別指定麻薬密売人、またはSpecially Designated Terrorists（特別指定テロリストにっている者、または組織に対して、いかなる製品も直接または間接的に輸出・再輸出しないことに合意します。また、ライセンシーは、EARにより認められていない軍事組織、または軍事目的のために他のいかなる者、または組織に対しても、StorageCraftの製品を輸出・再輸出しないことに合意します。また、ライセンシーは化学、生物、または核兵器、或いはかかるような兵器を運べるミサイルにかかわる使用のためにStorageCraftの製品を売却してはなりません。

第13章　通知

当事者間の通知は必ず書面で行われなければなりません。また、以下の連絡先を使って手渡し、または配達証明付き郵便、（配達証明書付き書留郵便、或いはファックスで送られた通知は渡されたものと見なされます。

StorageCraft :	法務部 StorageCraft Technology Corporation 11850 South Election Road, Suite 120 Draper, UT 84020 U.S.A.
コピー送付先：	StorageCraft Technology Corporation P.O. Box 1149 Riverton, UT 84065
ライセンシー：	ライセンシーが最後にStorageCraftへ届け出た住所

第14章　Microsoft ® Windows ® Preinstallation Environment（「WinPE」にかかわるライセンス

StorageCraftは、マイクロソフト社により、**Microsoft ® Windows ® Preinstallation Environment**ソフトウェア（バージョン2005及び2.0を含むに関して与えられたライセンスのもとでライセンシーの立場となっています。本契約によるライセンシーはWinPEに関して、以下の条項を受け入れます。

14.1. 本ソフトウェアは、ブート、診断、災害復旧、セットアップ、復元、緊急サービス、インストレーション、テスト及び/ または設定ユーティリティプログラムとしてしか使用できない、汎用的基本ソフトとして、または基本ソフト製品の完全版に取って代わるものとして使用できない。

14.2. **本ソフトウェアには、24時間の継続的使用後、ライセンシーへの予告なしでコンピューター・システムを再起動させるセキュリティー機能が含まれているWINPEが入っている。このタイムアウト機能は、WINPEが備わっているコンポーネントが再起動される度にリセットされる。**

14.3. 本ソフトウェアにかかわるマイクロソフト社及びその関連会社の一切の責任は、完全にかつ無条件にここに否認される。

14.4. 全てのカスタマーサポート上の課題は、StorageCraftが単独で取り扱うものとする。

14.5. 適用されるべき法律により認められた場合を除き、ライセンシーによるWinPEのリバースエンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルは特に禁じられている。

14.6. ライセンシーは、本ソフトウェアが米国の輸出管理規制の対象となっていることを明確に知らされ

ている。

14.7. ライセンシーによる本契約に対する違反が原因で、StorageCraftのマイクロソフト社とのライセンス契約に対するStorageCraftによる違反を引き起こした場合、ライセンシーは、本契約の別の定めにより設けられた賠償責任の制約の如何を問わず、かかる違反に対して、StorageCraftを補償・免責することに合意する。

第15章 パスワード

本ソフトウェアのパスワード保護や暗号化機能を使用する場合、パスワードを紛失すると、本ソフトウェアで作成したイメージファイルやデータにアクセスできなくなる可能性があります。StorageCraftはStorageCraftが設定したパスワードを保持したり、管理したり、監視したりすることはありません。また、StorageCraftは、パスワードの紛失及び、そのリカバリにおける手助けをする責任を負いません。ライセンシーは、パスワードを作成したり、データを暗号化する事は、パスワードを紛失した場合、本ソフトウェアで作成したイメージファイルやデータにアクセスできなくなる可能性があることを理解し、同意します。

第16章 その他

16.1. アクティベーション。本ソフトウェアのアクティベーションにかかわる手続が、本ドキュメンテーションの中に記述されています。同プロセスにおいて、StorageCraftのアクティベーション・サーバーがライセンスされた本ソフトウェアの各シートを認証します。ライセンスされた本ソフトウェアのシートがライセンシーによりアクティベートされたか否かに関する問いについて、StorageCraftのアクティベーション・サーバーの記録が確定的です。

16.2. 可分性。本契約の規定が適用されるべき法律により、強制力がない、または無効である場合、かかる強制力のなさ、または無効性により、本契約は全体として強制力のない、または無効なものにははならず、かかる強制力のない、または無効な規定を、適用されるべき法律の範囲内において、かかる規定の目的をなるべく成し遂げるべく更・解釈するものとします。

16.3. 完全合意。ライセンシーが本ソフトウェアの供給に関して、StorageCraft、またはそのディーラー、ディストリビューター、再販売業者、または正式代表者と別途で署名された合意書（マネージッド・サービス・プロバイダー契約などの場合を含めてを締結した場合を除き、本契約は本ソフトウェアに関するStorageCraft及びライセンシー間の合意の内容を網羅なく記した唯一の文書であり、以前に当事者間で交わされた全ての口頭、または文書によるコミュニケーション、表明、理解及び合意事項に取って代わるものです。

16.4. 権利放棄・更禁止。本契約は、StorageCraftの正式代表者により発行された文書のみにより更できます。行動が遅れた場合でも、行動を怠った場合でも、本契約によりStorageCraftへ帰属する、またはStorageCraftへ与られている権利の放棄を構成しません。

16.5. 第受益者の不存在。本契約による第受益者がいなく、また、いかなる第者にも、本契約を強制的に履行させる権利はありません。

16.6. 譲渡。StorageCraftは本契約をライセンシーと締結しており、StorageCraftからの書面による事前承諾なくしては、本契約を譲渡して、または承継（法の作用による場合を含めるさせてはなりません。ライセンシーのコントロールへの更は譲渡と見なされます。

16.7. 遵守。本ソフトウェアがビジネス、または商用のためにライセンスされている場合、本契約の効期間中、及びその後3年間に亘り、StorageCraftはライセンシーの事務所内で通常の営業時間内、かつ、ライセンシーの営業活動に及ぼす乱れを最小限に抑える方法で、ライセンシーの本契約に対するコンプライアンスの状態を検証することができます。StorageCraftは、ライセンシーの事前承認を得て、このために独立監査人を使うことができます。なお、ライセンシーは妥当な理由なく自らの承認を差し控えてはなりません。

16.8. 表題及び見出し。本契約に用いられている表題及び見出しは、専ら便宜、または参考のためのものであり、本契約の範囲・意図を更、拡大、制限、または説明し、或いは本契約の条項に影響を及ぼすものではありません。

16.9. 不可抗力。本契約によるStorageCraftの義務の履行において、遅延、怠慢、または不履行が発生した場合、不可抗力が原因で発生した程度においては、本契約に対する違反を構成しません。

16.10. 準拠法。本契約は、アメリカ合衆国ユタ州の法律により規制・解釈されます。本契約にはユタ州以外の管轄区域の法律を適用させるべき法の選択、または法の抵触の法理、規則、または規定が適用されません。また、本契約には国際物品売買契約に関する国際連合条約 は適用されません。本契約、または本契約による両当事者の関係にかかわる一時的差止命令（temporary restraining order、暫定的禁止命令（preliminary injunction、仲裁補助差押（attachment in aid of arbitration、または中間措置命令（order for interim measure、或いは保全処分命令（order for conservatory measure等の仮救済方法（provisional reliefを求める訴訟は、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレークシティにおいて提起されなければなりません。両当事者は、かかるような仮救済方法、または中間措置、或いは保全処分を求める訴訟のために、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク郡に位置する州、または連邦裁判所の専属管轄権に同意し、かかる専属管轄権に服する。本契約に対しては、国連国際物品売買条約が適用されません。

16.11. 紛争解決。本ソフトウェアの購入、使用、また本契約に起因・関連・関係する紛争、争い、または請求（本契約の効性、解除、履行、または違反に関する紛争等を含むが、著作権、商標権、または他の知的財産権の侵害にかかわる請求を除くは、最終的な解決のためにアメリカ仲裁協会（American Arbitration Association、以下、「AAA」の管理下で実施される仲裁へ付託されます。かかる紛争、争い、または請求が発生した場合、訴状及び出頭命令の最終日またはそれ以前に仲裁する旨の通知を書面で行う必要があります。ライセンシーが米国居住者である場合、または米国内に営業所を維持している場合は、かかる仲裁はそのときに効なAAA商業仲裁規則（両当事者の合意により、同規則の内容が更された場合を除くに従って実施されます。ライセンシーが米国居住者でない場合、及び/または米国内に営業所を維持していない場合は、かかる仲裁はそのときに効なAAA国際仲裁規則（本契約の中において、または両当事者の合意により、同規則の内容が更された場合を除くに従って実施されます。かかる仲裁は、両当事者が別途に合意した場合を除き、AAAの中立仲裁人名簿（roster of neutralsから選ばれた2名の仲裁人により行われ、仲裁場所はアメリカ合衆国ユタ州ソルトレークシティとします。手続は英語で行われます。上記2名の仲裁人は二人とも英語を流暢に話せ、ソフトウェア・ライセンス取引において経験を持っている弁護士でなければなりません。国際仲裁規則に従って仲裁を実施する場合、仲裁人は国際商取引においても経験を持っていなければなりません。仲裁人らにより言い渡された裁定は確定的、かつ、本契約の両当事者を拘束するものとなり、かかる裁

定については、ユタ州統一仲裁法（Utah Uniform Arbitration Act、ユタ州Code Ann. 第78B-11-101項以下参照で認められている根拠のみに基づき、管轄権のある裁判所において異議を申し立てることができます。異議が申立てられなかった場合、かかる裁定に基づいた判決を管轄権のある裁判所において登録することができます。本契約及び仲裁規則に基づき、仲裁法定へ与えられた権限を制約することなく、かかる仲裁法廷は衡平原則（equitable principlesを適用し、衡平救済方法（equitable remediesを裁定する権限をします。両当事者は、仲裁に合意することにより、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレークシティにおいて管轄権をする裁判所が、一時的差止命令、暫定的禁止命令、仲裁補助差押、または中間措置命令、或いは保全処分命令等の仮救済方法を発行する能力を奪うことを意図しません。なお、一方の当事者が裁判所に対して、かかるような仮救済方法、または中間措置、或いは保全処分を申請した場合でも、本仲裁付託合意を放棄したとは見なされません。

16.12. CDDL. 本ソフトウェアの実行可能なVBoxHDDXSP.dllには、Common Development and Distribution License Version 1.0（「**CDDL**」）によってライセンスされている、VirtualBox Open Source Editionソースコードを含む、無編集のファイルが含まれています。StorageCraftは、CDDLにライセンスされているファイルに何ら更を加えておらず、StorageCraftは、CDDLに定義づけされている条件に貢献するものではありません。本ソフトウェアは、本契約にのみ基づいてライセンスされ、配布されます。CDDLはライセンシーに対して、本ソフトウェアにおける権利、所権、または利権を提供するものではありません。CDDLと、上記のCDDLにライセンスされているソースコードについての詳細は、README.RTF を参照してください。

16.13 存続。本契約書の料金やその他の支払いや、保証、賠償責任の限定、に関する条項は、紛争解決、構造や解釈の問題や、本質的に解除後も存続する性質のその他の条項は、本契約の解約、または満了後も存続します。

16.14 電子的執行。本契約の両当事者は、Utah Uniform Electronic Transactions Act, Utah Code Ann. § 46-4-101 et seq.に従って、電子署名や電子エージェントを含む、電子的方法によって本契約が作成、執行、または送付されることに同意します。

16.15. StorageCraftの連絡先。本契約について質問があれば、ライセンシーは次の連絡先でStorageCraftへ連絡することができます。ホームページ：www.storagecraft.com、電話: 801-545-4700、ファックス：801-545-4705、郵便：StorageCraft Technology Corporation 11850 South Election Road, Suite 120, Draper, Utah 84020, U.S.A.。

EULA バージョン：2011年6月9日

c 著作権2006年～2011年 StorageCraft Technology Corporation。無断複写・複製・転を禁じます。本ソフトウェア及び本ドキュメンテーションは、StorageCraft Technology Corporationの著作権の付いている財産です。ShadowProtect Server、ShadowProtect Small Business Server、ShadowProtect Desktop、Virtual Boot、ImageManager、ImageManager Enterprise、またShadowProtect KeyFileMakerに対する全ての権利はStorageCraft Technology Corporationが独占的に留保・所しています。StorageCraft、StorageCraft Recovery Environment、ShadowProtect Server、ShadowProtect Small Business Server、ShadowProtect Desktop、Virtual Boot、HeadstartRestore、ImageManager、ImageManager Enterprise、KeyFileMaker、またExact Stateおよびそのそれぞれのロゴ・商標はStorageCraft Technology Corporationが米国等において所するものです。Microsoft及びWindowsはマイクロソフト・コーポレーションの登録商標です。Windows Preinstallation Environment及びWinPEは、マイクロソフト・コーポレーションの商標であり、またはマイクロソフト・コーポレーションの商標である可能性があります。VMware は、VMware, Inc.の商標であり、またはVMware, Inc.の商標である可能性があります。本ソフトウェアには、Pierre Mounir（The Truthにより付与されたライセンスにより承認されたPE Network Configuratorの派生的ソフトウェア・アプリケーションが含まれている可能性があります。（c 2003-2010 with all rights reserved. 本契約において言及されている他の全てのブランド及び商品名は、そのそれぞれの所有者の商標または登録商標になっているか、その商標または登録商標になっている可能性があります。